捃拾帖

明治二十年ヨリ
同　廿一年マデ

廿七

A 00
6010

A00-6010
B 61009

伊勢國津
結城神社宮司川口常文
廿七

謹テ拝啓仕候陳者本年ハ當社祭神結城宗廣朝臣ノ五百五十年ノ忌辰ニ相當候ニ付別紙廣告ノ通大祭典ヲ執行致シ候事ニ御座候然ニ右祭典ノ儀ハ私祭ニシテ其費金ニ於ケル官費ヲ相仰キ候儀ハ固ヨリ難相成又氏子等ハ毫モ無之候ニ付唯一社神官ト有志者トニ於テ負擔致シ候儀ニ御座候付テハ頗ル困難ノ儀モ御座候ニ付至極恐縮ノ儀ニ御座候ヘ共朝臣カ當時ノ忠功ヲ御追懐アラセラレ特別ノ御厚意ヲ以テ右祭典費トシテ多少ニヨラス義金ヲ御寄贈被下度此段伏テ懇願仕候也

但シ御寄贈被下候分ハ來ル四月廿日マテニ御送金被下候樣願上候也

明治二十年三月

伊勢國津
結城神社宮司川口常文

田中元老院議官殿
執事御中

追テ右祭典ノ爲メニ當社ヨリ別人ヲ差出シ寄附等相募リ候儀無御座候此段爲念申添候

A00-6010

B 61009

男爵田中美津男氏寄贈
先代田中光顯男旧藏書
昭和七年

謹テ拜啓仕候陳者本年ハ當社祭神結城宗廣朝臣ノ五百五十年ノ忌辰ニ相當候ニ付別紙廣告ノ通大祭典ヲ執行致シ候事ニ御座候然ニ右祭典ノ儀ハ私祭ニシテ其費金ニ於ケル官費ヲ相仰キ候儀ハ固ヨリ難相成又氏子等ハ毫モ無之候ニ付唯一社神官ト有志者トニ於テ負擔致シ候儀ニ御座候付テハ頗ル困難ノ儀モ御座候ニ付至極恐縮ノ儀ニ御座候ヘ共朝臣カ當時ノ忠功ヲ御追懷アラセラレ特別ノ御厚意ヲ以テ右祭典費トシテ多少ニヨラス義金ヲ御寄贈被下度此段伏テ懇願仕候也

但シ御寄贈被下候分ハ來ル四月廿日マテニ御送金被下候樣願上候也

明治二十年三月

伊勢國津

結城神社宮司川口常文

田中元老院議官殿
執事御中

追テ右祭典ノ為メニ當社ヨリ別人ヲ差出シ寄附等相募リ候儀無御座候此段為念申添候

伊勢國
結城神社宮司川口常文

結城神社五百五十年祭概況

今茲明治二十年ハ當社祭神贈正四位結城宗廣朝臣ノ五百五十年ノ忌辰ニ當レルヲ以テ五月一日ヨリ七日ノ間臨時大祭典ヲ執行セリ抑モ朝臣ハ楠正成卿ト同功一体精忠義烈ノ偉大丈夫ニシテ其事歴ノ如キハ人ノ能ク知ル所ナルヲ以テ此ニ贅セス今其祭典ノ概況ヲ記サンニ其第一日即チ五月一日ハ例祭ノ日ナレハ石井三重縣知事ニハ　奉幣使トシテ屬官二名ヲ隨ヘ參向セラル騎馬ノ警部四名巡査數名之ヲ護衛シ午前第十時社務所ニ着セラルヽヤ祝炮數發ヲ放揚ス是ノ時宮司始メ一社神職及ヒ遠近ヨリ來リテ祭祀ニ會スル神職三十餘名先祭庭ニ進ミ開扉進供ノ式了リテ宮司御幣物ヲ献ル次ニ　奉幣使進テ祝詞ヲ奏セラレ次ニ宮司五百五十年祭ノ祝詞ヲ奏ス次ニ　奉幣使ヲ始メ順次ニ拜禮畢テ撤供閉扉ノ事了リ正午十二時ニ至リ式全ク終リテ各自退出シ　奉幣使ハ直ニ歸廳セラル二日ヨリ七日ニ至ル迄其祭典ノ儀式ハ第一日ニ異ナラス但　奉幣使ノ參向ナキノミ其第二日ヨリ終祭ノ日ニ至ルノ間ハ祭神ノ後裔タル羽後國結城家其他舊臣ノ惣代等拜禮アリ偖又祭典中附屬地內ニ五間ニ七間ノ家屋ヲ新築シテ寶物拜覽場トナシ當社ノ寶物ニカヽル元弘三年四月十七日　後醍醐天皇ヨリ朝臣ヘ下シ賜リシ所ノ　密詔ヲ始メ　御綸旨御下文御國宣數通幷朝臣ヘ賜リシ所ノ紫旗及朝臣着用ノ鎧袖等數種其他遠近ノ諸家ニ傳ハル所ノ　南朝ニ關スル遺書遺物ヲ排列シテ衆庶ニ拜覽セシム尙海內ノ文人墨客ヨリ歌詩文章ヲ奉獻スルモノ無慮一千餘種ナリ猶其他有志ノ奉納シテ詣者ニ縱覽セシメシモノハ第一日ニハ管內ニ在テ有名ナル擊劔家ノ試合及東京ノ力士伊勢ケ濱龍門等ノ大角力但シ角力ハ第一日ヨリ三日間第四日ヨリ三日ノ間ハ附屬地內ニ設ケタル馬場ニ於テ競馬布呂引曲乘騎馬調練等アリテ爲ニ遠近ヨリ相會スル馬匹日々百頭ニ下ラス又數日間晝夜ニ數百本ツヽ烟火ヲ放揚セリ尤八日ノ夜ハ本縣警察本部ノ諸員ヨリ奉納セル肥後國熊本風ノ大仕掛綱火ハ實ニ精巧ヲ極メ衆人ノ目ヲ驚カセリ又祭神ノ履歴ヲ幻燈ニ寫影シテ示ス等種々枚擧ニ遑アラス又馬場ノ中央ニ百尺余ノ竿ヲ立テ竿頭ヨリ四方ヘ數條ノ鐵線ヲ曳キ其線ニ數百ノ紅燈ヲ釣リ黃昏ニ一時ニ點火セル其サマ遠方ヨリ望メハ烟火ノ光ト相映シ宛モ日出カト怪マレ又第二日ニハ舊津藩主藤堂家ノ代拜アリ第五日ニハ名古屋鎮臺步兵第六聯隊及砲兵一中隊行軍ヲ兼テ參拜アリ同臺司令官黑川陸軍中將ニモ參拜セラルヘキノ所不快ノ爲ニ代トシテ高木陸軍步兵少佐參拜アリ又第五旅團長黑木陸軍少將ノ代トシテ參謀伊藤陸軍砲兵大尉參拜アリ此カ爲メ群集ノ士民ニ勇氣ヲ鼓セリ同日大阪鎮臺司令官高島陸軍中將ニハ巡回ノ途次副官小畑陸軍步兵少佐傳令使伊東陸軍步兵中尉等ヲ從カヘ參拜アリ尙又此祭日中當津市街準市街合セテ七十餘ケ町村ヨリハ日々種々ノ練物ヲ出シ鐘鼓絃管等ノ唱囃ニテ神社ニ參集ス其途中歌舞ヲ奏スルアリ手踊ヲナスアリ或ハ俄狂言等種々ノ戯藝ヲ爲スサマ殊ニ雜沓ヲ極メリ而メ其練物ノ中大ナル首級ヲ製シ是ヲ墓前ニ供ヘ凱歌ヲ唱フルアリ又朝臣ノ義兵ヲ擧ケラルヽサマニ擬シ百有餘名甲冑ヲ着シ騎馬ニテ押出スアリ其他趣向ハ各異ナリト雖モ何レモ朝臣カ當時ノ義擧ニ因由シ仰慕追想ノ意ヲ表スルモノニシテ自ラ正邪忠奸ヲ明示セシムルニ外ナラズ又搢士豪商俳優俠客ノ輩各旗幟幕等ヲ奉納スルモノ數十又境內及附屬地ニ出ス所ノ興行物及手遊物飲食店等幾百千ナルヲ知ラス又市街準市街戶毎ニ國旗ヲ揭ケ檐燈ヲ點スル等其美觀名狀スヘカラス斯クテ貴顯諸氏及先年當社改造ノ砌尽力セシ有志者其他當社ニ緣故アル諸氏ヘ宮司ヨリ招狀ヲ發シ饗應ヲナセシモノ其數千有餘名アリ又此祭典中老幼男女等日々陸續トシテ遠近ヨリ詣デシ所ノモノ日ニ增加シ境內及附屬地共併セテ一万坪許ノ地モ立錐ノ地ナク爲ニ市街ハ腕車ノ通行モ塞リ步行モ自由ナラサルニ至ル其祭典中ニ來拜セシ人員ヲ概算スルニ百万人ニ下ラサルヘク皆人每ニ其盛大ヲ稱揚贊嘆セサルハ無シ斯ク數日間群集雜沓ヲ極メシ事ハ本縣下ニ在リテハ未タ曾テ聞カサル所ナリト云フ偖テ此大祭典ニ付要セシ所ノ費用金額ハ數千金ニ上ルモ素ヨリ私祭ニシテ官費ヲ仰クヘキモノニアラス又一戶ノ氏子モ無ケレハ唯コレヲ有志ノ寄附ニ依賴スルノ外ナシ爲ニ宮司等ハ大ニ身心ヲ勞シケルニ石井三重縣知事ニハ非常ニ心力ヲ傾ケ自ラ率先シテ金圓ヲ抛チ又長沼安濃津始審裁判所長山中安濃郡長ヲ始メ縣下各郡長モ大ニ之ヲ贊助シ同ク金員ヲ捐テ或ハ衆庶ヲ勸諭奬勵セラレシト遠近有志諸氏ノ奮發協力トヲ以テ遂ニ其巨費ヲ支フルヿヲ得タリ抑今回大祭典ノ盛大隆昌ナリシヿハ洵ニ衆人ノ意想外ニ出ルモノニシテ眞ニ天人合感ノ結果ト謂ツベシ嗚呼是ノ如キ大祭典ヲ執行シ以テ五百有餘年間埋沒ニ歸シタリシ所ノ朝臣ノ忠烈ヲ大ニ天下ニ發揚シ既往在天ノ英魂毅魂ヲ慰メ現今率土ノ忠心義氣ヲ振起スルハ乃チ本社ヲ別格官幣社ニ列セラレシ所ノ　聖旨ニ奉答スルモノニシテ宮司等ノ誠ニ以テ感悅ノ至ニ堪ザル所ナリ今其祭典ノ顚末ヲ詳記セントスルモ筆語ノ能ク尽ス所ニアラス之ニ依テ其大概ヲ記シテ以テ此祭典ニ會セサリシ諸彥ニ報ズ

明治二十年五月

伊勢國津

結城神社社務所

本月十日曜日午后四時ヨリ臨時會
開會候ニ付御参席相成度
右會長ノ命ニ依リ此段及御通知候也

七月五日　東京學士會院書記

田中不二麿殿

追テ當日晩[illegible]
[illegible]

拝呈本月八日例會日ニ候處[illegible]ニ
付御出席之有無来ル六
日迄ニ御報知相成度候
傍聴券五葉及送付候條
御領收相成度候也

五月□日

東京學士會院書記

田中不二麿殿

田中元老院議官殿
執事御中

謹テ拝啓仕候陳ハ曾テ申上候當結城神社
祭神贈正四位結城宗廣朝臣ノ五百五十年
祭之儀則紙摺況書之通リ意外ニ盛大ニ執
行相成感悦ノ至ニ堪ス依テ此段御報道申
上候也恐惶謹言

明治廿年五月三十日　伊勢國津　結城神社宮司川口常文

伊勢國津
結城神社宮司川口常文

明治廿年五月三十日

廣告

來る十一日(第二月曜日)より十五日(第三金曜日)まて本會々堂厚生館に於て開設

第十八回

農産品評會

穀菽家禽農産貯藏品其他の農産を評し列品は公衆の來觀を許す

明治二十年四月

京橋區木挽町貳丁目拾四番地 大日本農會

廣告

四月一日(第一金曜日)ヨリ同七日(第一木曜日)マテ七日間京橋區木挽町二丁目本會々堂厚生館ニ於テ

○第一回水産品評會

右ハ清國貿易品(鯣、海參、乾鮑、鱶鰭、乾鰕)及水産雜用製品(介殼細工、鱗甲細工、魚骨細工、魚皮細工)ヲ蒐集品評シ公衆ノ來觀ヲ許ス但本會々員外入場料金二錢トス

明治二十年三月

大日本水産會

拜啓陳者來ル四月一日ヨリ七日迄本會々堂京橋區木挽町二丁目厚生館ニ於テ第一回水産品評會相開候ニ就キ御來觀被下度優待券相添ヘ御按内申上候也

明治二十年三月卅一日

大日本水産會幹事長

吉田清成

來四月十一日(第二月曜日)ヨリ十五日(第三金曜日)マテ五日間本會ニ於テ第十八回農産品評會相開主トシテ穀菽食用家禽、農産貯藏品ヲ品評仕旁他諸種ノ農産物ヲモ品評仕候付テハ御廳ヨリモ精々御出品被下度段別紙規則書相添相願置候へハ倘閣下ニ於テモ此旨御贊成開會ノ節ハ何卒御來觀被下候樣イタシ度此段特ニ得貴意候以上

明治二十年三月十七日

大日本農會幹事長田中芳男

拜啓陳者來ル五日午前十時三十分京橋區木挽町二丁目本會々堂厚生館ニ於テ第一回水產品評會褒賞授與式執行候間御臨場被下度此段御按内申上候也 敬具

明治二十年四月三日 大日本水產會幹事長

吉田清成

式場順序

一午前十時二十分諸員一同式場參着

一仝十時三十分會頭殿下幹事長ノ先導ニテ式場御着席諸員一同敬禮

一品評委員長演席ニ進ミ審査結了ノ旨ヲ演述ス

一會頭殿下褒賞授與ノ式辭ヲ述ヘラル

一事務委員順次受賞人ヲ呼出シテ會頭殿下ノ前ニ進マシム

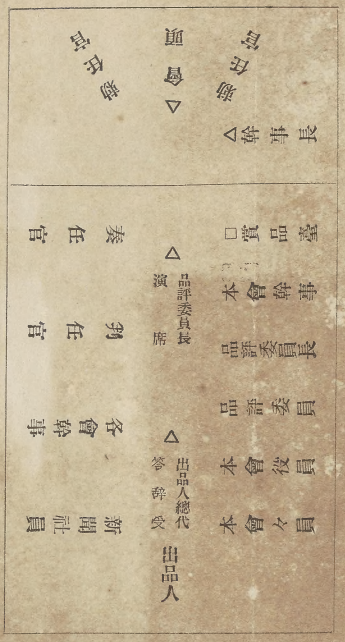
一會頭殿下左ノ等級ニ從ヒ順次褒賞ヲ授與セラル

褒狀 一等賞 二等賞 三等賞 四等賞 五等賞

一次テ出品人總代答辭席ニ進ミ答詞ヲ述フ

一右終テ諸員一同敬禮式場ヲ退ク

式場參列ノ順序左ノ如シ



大日本農會

豫て報告第六拾七號を以て御報道れよひ置候如く來十一日より左記の通諸會相催し候よ付成るへく御繰合を以て御參會被下度右御按内申上候以上

但御參會の節は必會員證御携帶相成度候

明治二十年四月十日 京橋區木挽町貳丁目拾四番地 大日本農會

第十八回農產品評會

明十一日(第二月曜日)より十五日(第三金曜日)まて五日間本會々堂厚生館よ於て開設主として穀菽食用家禽並よ農產貯藏品を品評し旁他諸種の農產をも稟評す但會員諸君は會員證を携ふるときよ限り其家族並よ朋友三名以内を誘引するも共よ入場料を要せす

第六回大集會

規則第八章第一、二節よ據り來十六日(第三土曜日)午前九時より前同所よ於て開設す其順序別記の如し

第六回定期會議

規則第九章第一、二節よ據り第六回大集會よ次き十八日(第二月曜日)午後第三時(午前第九時よりの處改正)より前同所よ於て開設特別會員諸君を會し本會規則改正案等を議す

勅任官	奏任官	判任官
各會幹事	新聞社員	

○大日本農會第十六回大集會順序

明治二十年四月十六日（第三土曜日）本會々堂厚生館に於て開會

一　當日午前第九時會員參着

二　次て幹事より開會及ひ前年中執行の要件を報道す

三　次て會員交〻各地農事の實況を談話す

四　午第十二時休憩

五　午後第一時招待の諸員參着

六　次て會頭殿下御告辭

七　次て會員諸氏演述

演題	會員	氏名
家禽說	特別會員	田中芳男君
白殭蠶試驗成績	同	緑木喜三君
動物改良の意味並に牧場取扱の要點	通常會員	農藝化學士 酒匂常明君
農業の振否は國力の强弱に關す 第一	特別會員	村上要信君
食物改良を論して飼食の必要を說く	通常會員	三澤綱藏君
稻の話	特別會員	稻波惇太郎君
山梨の農業	通常會員	內藤文治郎君
農事改良の目的 學問と實業との關係	特別會員	酒井爲太郎君

八　次て抽籤を以て來會員中より紀念品として農具農書等の類（自一等至十等）を進呈す

九　次て茶菓を進呈す

十　右畢て散會

大日本農會

大日本農會

豫テ報告第六拾六、七號ヲ以テ御報道オヨヒ置候通來四月十六日（第三土曜日）本會々堂厚生館ニ於テ第六回大集會相開候筈ニ有之付テハ當日御專攻ノ事項ニツキ何卒一場ノ御演述被成下候樣致度此段特ニ御依賴オヨヒ候也

明治二十年三月十七日

大日本農會幹事長田中芳男

農藝委員

田中芳男殿

追テ御承諾ノ上ハ御演題遲クモ本月三十一日マテニ本會ヘ御通報被下度此段申添候也

拜啓陳者來ル四月一日ヨリ全七日マテ本會々堂厚生館ニ於テ相開キ候第一回水産品評會及同館内ニ相設ヶ候水産陳列場開場式等左ノ日割ヲ以テ執行致シ開場式及ヒ褒賞授與式ニハ會頭殿下ニモ御臨場相成候間御繰合セ御臨場相成度此段御案内申候也

明治二十年三月三十日

幹事長　吉田清成

一 水産品評會 / 水産陳列場 開場式　四月一日午前十時執行

一 水産品評會褒賞授與式　四月五日午前十時三十分執行

一 全 閉場式　四月七日午後四時三十分執行

以上

蠶豆豌豆製の落雁

蠶豆、豌豆はともに養分多き食料なれとも唯その用方の宜しからさるによりて或は消化を鈍くするをあり世に所謂煎豆(まめ)の如きは消化殊にあしきものとす然るに頃日我會員中村定七氏の新に按出して發賣せる貳種の落雁は專ら煎豆の粉末を以て製し其消化大に宜しきのみならす甘香口に適ひて甚茶媒の料に佳なるを覺ゆ蓋また我農産に一の新利用をなしたるものなり

大日本農會

○大日本農會第

明治二十年四月十六日(第三土曜

一 當日午前第九時會員參着

二 次て幹事より開會及ひ前年中

三 次て會員交〻各地農事の實況

四 午第十二時休憩

五 午後第一時招待の諸員參着

六 次て會頭殿下御告辭

七 次て會員諸氏演述

八 次て抽籤を以て來會員中に紀念品として農具農書等の類(自一等至十等)を進呈す

九 右畢て散會

今般第六回定期會議に於て規則第五章及ひ第六章中改正幹事長、幹事、常置議員、同補欠員任期短縮相成候につきては現任幹事長、常置議員、同補欠員は本年四月を以て滿期、幹事半數(岩山敬義、半井榮、後藤達三の三氏)は任期すてに經過につき此際臨時改撰いたすへく候間此旨御了承左項に照準し被撰擧人名を投票箋に御記入の上來六月二十日までに本會に到達候樣御送致有之度此段特別會員諸君へ申進候也

明治二十年五月十五日

大日本農會

一 被撰擧者は左表に記する在東京特別會員の中たるへし

一 滿期者を再撰するも妨けなし

一 左表中池田謙藏、岡毅、片山遠平の三氏は幹事任期未滿につき今回の撰擧には除かるへし

一 右の三氏並に今回撰擧すへき幹事長、幹事と常置議員、同補欠員とは互に相重撰せさるを要す

一 投票は上封に「投票在中」と記し且他件に係る信書を封入せさるを要す

在東京特別會員氏名　明治二十年五月十日調査

岩山敬義	大槻吉直	吉村幹影	平野師應
池田謙藏（幹事任期未滿）	織田完之	與倉守人	津田三出
子爵伊藤長諳	小野職愨	多田元吉	津田仙
石渡正敏	和田維四郎	竹尾忠男	子爵土屋擧直
伊藤朝往	渡邊洵一郎	髙輪守典	練木喜三
星野與逸	藥品檜太郎	竹尾將信	成島謙吉
岡毅（幹事任期未滿）	片山遠平（幹事任期未滿）	田中芳男	半井榮
奥青輔（洋行中）	河瀬秀治	武井守正	鳴門義民
竹中卓郎	髙鋭一	谷本淸兵衛	中川幸七

同

同

拜啓陳者來ル四月一日ヨリ全七日マテ本會々堂厚生館ニ於テ相開キ候第一回水産品評會及同館内ニ相設ケ候水産陳列場開場式等左ノ日割ヲ以テ執行致シ開場式及ヒ褒賞授與式ニハ會頭殿下ニモ御臨場相成候間御繰合セ御臨場相成度此段御接内申候也

明治二十年三月三十日　幹事長　吉田清成

一 水産品評會 水産陳列場 開場式　四月一日午前十時執行
一 水産品評會褒賞授與式　四月五日午前十時三十分執行
一 全 閉場式　四月七日午後四時三十分執行

以上

○大日本農會第六回大集會順序

明治二十年四月十六日（第三土曜日）本會々堂厚生館に於て開會

一 當日午前第九時會員參着
二 次て幹事より開會及ひ前年中執行の要件を報道す
三 次て會員交〻各地農事の實況を談話す
四 午第十二時休憩
五 午後第一時招待の諸員參着
六 次て會頭殿下御告辭
七 次て會員諸氏演述
八 次て抽籤を以て來會員中より紀念品として農具農書等の類自一等至十等を進呈す
九 右畢て散會

常置議員	同	同	同	同	同	同	同	同

成川尙義　中村孝　村上要信　村山眞鎭　子爵上杉勝賢　山田敬三　曲直瀨愛　眞崎健　深井寬　藤田一郎　船津傳次平　小花作助　穴山篤太郎　坂田春雄　佐々井久和　澤田駒次郎　木村莊平　宮島信吉　島村泰　宍戸昌　樋田魯一　洋行中 關澤明清

李田登太　理學士和田雄治　小山正武　平山省齋　田中頼庸　宍野健丸　早矢仕有的　江上勘左衛門　杉本正德　河合執銀　泉猪太郎　今井兼利　北川吉郎　松野碉　安田善次郎　後藤達三　佐野延勝　塚原周造　野邊地尙義　石丸安世　德川昭武　杉山榮藏

南一郎平　伊東敬之　河野通猷　伯爵阿部正桓　工學士河喜多能達　川井忠兵衛　伊藤十藏　松浦又兵衛　中野健明　貴島宰輔　神鞭知常　相良知安　池田謙　子爵板倉勝達　富田冬三　藤澤親之　光永弘道　早水濟　柳谷謙太郎　堀誠太郎　川原英次郎　奈良原繁

石川丈吉　關根太左衛門　野村彥四郎　折田正介　理學士佐々木忠二郎　岡田長道　岡部綱紀　岸三郎　名取市四郎　波多野尹政　三村實　最上五郎　子爵阿部正功　飯田孝次　岩谷右衛　岡野朝治　山下政愛　吉田健作　妻木狷介　農學士農藝化學士押川則吉

合計百貳拾貳名

蠶豆豌豆製の落雁

蠶豆、豌豆はともに養分多き食料なれども唯その用方の宜しからさるによりて或は消化を鈍くするとあり世に所謂煎豆（いりまめ）の如

…よ頃日

大日本農會報告第六拾八號附錄　明治二十年三月十五日

○廣告

○第六回大集會

右は報告第六拾七號を以て報道せし如く規則第八章第一、二節ニ據り來四月十六日第三土曜日午前九時より本會々堂厚生館ニ於て開設總て各地農事の實況ニつきて談話し併せて將來の意見を諮詢すへきニつき會員諸君は成るへく繰合御參會且御意見御陳述あらんことを希望す、但當日席上ニ於て談話の他ニ別段御演述の件も候は丶其演題遲くも本月三十一日までに本會へ御通知を乞ふ

○第六回定期會議

右は報告第六拾七號を以て報道せし如く規則第九章第一、二節ニ據り來四月第六回大集會ニ次き十八日第三月曜日午前第九時より前同所ニ於て開設報告第六拾七號附錄を以て報道せし如く本會規則改正案等を議すへきにつき特別會員諸君は成るへく御參會あらんことを希望す

○第十八回農產品評會

右は報告第六拾七號を以て報道せし如く來四月十一日第二月曜日より十五日第三金曜日まで五日間前同所ニ於て開設主として穀菽、食用家禽幷ニ農產貯藏品を品評し旁他諸種の農產をも彙評すへきニつき會員諸君は成るへく御出品且繰合御參觀の上他人へも勉めて來觀を御奬誘あらんことを希望す

大日本農會

投票箋

幹事長	幹事	同	同	常置議員	同	同	同	同	同
常置議員	同	同	同	同	同	同	同	同	同
常置議員	同	同	同	同	同	同	同	同	

拜啓陳者來ル四月一日ヨリ全七日マテ本會々堂厚生館ニ於テ相開キ候第一回水產品評會及同館内ヘ相設ケ候水產陳列場開場式等左ノ日割ヲ以テ執行致シ開場式及ヒ褒賞授與式ニハ會頭殿下ニモ御臨場相成候間御繰合セ御臨場相成度此段御案内申候也

明治二十年三月三十日

幹事長　吉田清成

一　水產陳列場開場式　四月一日午前十時執行

一　水產品評會褒賞授與式　四月五日午前十時三十分執行

一　仝　閉場式　四月七日午後四時三十分執行

以上

成川尙義　中村孝　村上要信　村山鎭　子爵上杉勝賢　山田敬三　曲直瀨愛　眞崎健　深井寛　藤田一郎　船津傳次平　小花作助　穴山篤太郎　坂田春雄　佐々井久和　澤田駒次郎　木村莊平　宮島信吉　島村泰　宍戸昌　樋田魯一　關澤明清（洋行中）

李圓登太[?]　理學士和田雄治　小山正武　平山省齋　田中穎庸　（神道扶桑教代理[?]）宍野健丸　早矢仕有的　江上勘左衛門　杉本正德　河合執銀　泉猪太郎　今井兼利　北川吉郎　松野磵　安田善次郎　後藤達三　佐野延勝　塚原周造　野邊地尙義　石丸安世　德川昭武　杉山榮藏

南一郎平　伊東敬之　河野通猷　伯爵阿部正桓　工學士河喜多能達　川井忠兵衛　伊藤十藏　松浦又兵衛　中野健明　貴島宰輔　神鞭知常　相良知安　池田謙[?]　子爵板倉勝達　富田冬三　藤澤親之　光永弘道　早水濟　柳谷謙太郎　堀誠太郎　川原英次郎　奈良原繁

石川丈吉　關根太左衛門　野村彥四郎　折田正介　理學士佐々木忠二郎　岡田長道　岡部綱紀　岸三郎　名取市四郎　波多野尹政　三村實　最上五郎　子爵阿部正功　飯田孝次　岩谷右衛　岡野朝治　山下政愛　吉田健作　妻木狷介　農學士農藝化學士押川則吉

合計百貳拾貳名

蠶豆豌豆製の落雁

蠶豆、豌豆はともに養分多き食料なれとも唯その用方の宜しからさるによりて或は消化を鈍くするとあり世に所謂煎豆の如

…ざるに頁日

來十四日(第二土曜日)午後正一時本會々堂厚生館に於て第五十八回小集會相開
左記の演述並に宿題其他農事に係る談話を相催し候に付成るへく御繰合を以て
御參會被下度右御按内申上候以上

演述

農業の振否は國力の强弱に關す第二　特別會員　村上要信君

肥料説　同　澤田駒次郎君

宿題

牛馬の改良蕃殖を圖るの便方

明治二十年五月十日

京橋區木挽町貳丁目拾四番地　大日本農會

追て來六月十一日(第二土曜日)第五十九回小集會の宿題は「目下我國の稻麥作改良に切要なる事項如何」に有之候間此段豫御承知の上當日席上にて通常談話の他に別段御演述の件も候はゝ其演題本月中に御通知被下度右併せて申進候

拜啓　陳者水産ノ事業近來大ニ擴張ノ氣運ニ向ヒ本會ノ如キモ日ニ會員ノ數ヲ加ヘ寔ニ欣喜ノ至ニ有之候依テ來ル廿五日大集會終結ノ日ヲ以テ府下日本橋區龜島町偕樂園ニ於テ水産懇親會相開度御同意ノ諸君ハ同日午後五時マテニ同所ヘ御參會アランコトヲ希望ス但會費金五十錢ノ事

明治二十年四月二十日

陽其二

小島兼美

中村利吉

追テ右御同意ノ諸君ハ來ル廿三日迄ニ其旨水産會事務所マテ御通知置被降度候也

來ル六月一日午后二時ヨリ日本橋區橘町三丁目十一番地共立會事務所ニ於テ小集會相開キ候間御繰合御臨席相成度此段及御案内候也

明治廿年五月十九日

大日本織物協會

拜啓　曾テ御案内申上置候第五回大集會初日(廿[illegible]日)ニハ各地ヨリ來リ候食品ノ品評二日目(廿[illegible]日)ニハ四條流庖丁家石井治兵衛氏外二名及[illegible]清國割烹家亞寶(アツポウ)氏ヲ相招キ日清兩國庖丁ノ[illegible]式ヲ執行仕候間可成御來會被下度此段申上候也

明治二十年四月廿一日

大日本水産會

岐阜縣人親睦會

小生等發起人トナリ岐阜縣人親睦會ヲ創設シ來六月四日午後三時向島枕橋八百松樓ニ開會ス同縣出身ノ諸君及同縣ニ縁故アル諸君萬障御繰合セ御來會アランコトヲ乞フ

但會費金壹圓御來會ノ諸君ハ來ル六月一日迄ニ日本橋區本町三丁目金港堂若クハ同區駿河町壹番地岸方ヘ御一報ヲ乞フ　有之

明治廿年五月

發起人總代

一川研三
原亮三郎
渡部甚吉
江崎禮二
柘植四郎
竹内拙三
山田駒吉
岸小三郎
大矢富三郎
平光茂兵衛

拜啓陳ハ本月廿四日午後正三時淺草須賀町鷗游館(舊井生村樓)ニ於テ第十回信濃親睦會相開キ候間同日ハ百事御繰合セ且御懇意ノ諸彥御誘引ノ上御參會有之度希望仕候尤モ準備ノ都合モ有之候間當前日迄ニ御來會ノ有無日本橋區坂本町七番地田中銀行ヘ御報道被下度候也

但シ會費壹圓五拾錢

明治二十年四月廿日

幹事　辻新次　伊澤修二　中川元
田中菊次郎　皆川四郎　小川正直
二見朝隈

一 [illegible]當社發行[illegible]勸農[illegible]
[illegible]號至第四十[illegible]號代價
郵税[illegible]共合金[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]也

明治二十年五月[illegible]

静岡縣遠江國
掛川農學社
[illegible]舍

郵便はがき

[illegible]

東京小石川區
江戸川町十八番地
中村正直

此表面ニハ[illegible]姓名ニ限り記スへし

大日本水產會報告第六拾一號附錄（明治二十年四月廿日）

廣告

來ル廿三日（第四土曜日）ヨリ廿五日（第四月曜日）迄三日迄每日正午ヨリ本會々堂厚生舘ニ於テ第五回大集會相開キ候間御來會被降度候也

明治二十年四月廿日　大日本水產會

集會ノ種別左ノ如シ

廿三日　演說及談話　廿四日　演說及說話　廿五日　議事及役員改撰

演說者左ノ如シ

煎海鼠製造改良ノ意見　水野正連君
土佐海鰹魚ノ說　服部徹君
水產品評私意　小島兼美君
三崎臨海實驗塲ノ話　松原新之助君
搾滓改良ノ要點附魚骨類廢棄物ノ利用　枕川温君
海外輸出水產品ニ就テノ意見　河原田盛美君

以上廿三日分

社會ノ進步ト漁業ノ關係　柏原忠吉君
我邊海ノ漁利外人ノ爲メニ既ニ網ミセラレントス　村田綱之君
水產經濟論　山田敬三君
不定　柳楢悅君
仝　田中芳男君
仝　町田實則君
仝　山本由方君

以上廿四日分

談話宿題左ノ如シ

干鮑ノ件

〇本會廣告

來ル廿五日（第四土曜日）午後一時ヨリ京橋區木挽町二丁目本會會堂厚生舘ニ於テ第五十五回小集會相開候間御來會有之度候也

明治二十年六月廿二日　大日本水產會

當日談話宿題

海豚諸件（前回ノ續）　海豚ノ種類、形狀、性質、捕獲法、及効用

當日演說者左ノ如シ

北海道漁業ノ現況（承前）　梅野四男吉君
食物ノ改良ヲ論シ併セテ水產ノ必要ヲ說ク　學藝委員　町田實則君
遠洋ノ鯨獵ヲ論シ併テ當路者ニ望ム所アリ　會員　服部徹君
未定　仝　黑野元生君
仝　學藝委員　松原新之助君

第一回水產品評會

明治廿年四月

優待劵

壹枚壹人ニ限ル

厚生舘內

大日本水產會

[illegible]

廣告

當舍ハ日用缺クヘカラサルノ物品即チ薪炭醬油等ヲ其產地ヨリ直輸シ專ラ廉價ヲ主トシ大販賣致來候處今般一層營業ヲ擴張シ三河北設樂東加茂兩郡ノ生產者ト特約シ更ニ左ノ物品發賣仕候此段廣告候也

一 白木類（三河北設樂郡產）　板屋根板、建具材、桶皮、床柱其他小割物
一 紙類（同東加茂郡產）　森下紙、大帳紙、美濃紙、半紙半切
一 薪類（下總產）　堅木、雜木、松材
一 炭類（三河下總產）　堅炭、土釜切炭、厚朴炭
一 醬油（下總產）　各種

右之外綿、藍、葉烟草、漆、串柿、椎茸、葛粉、蕨粉、蕨繩、棕櫚繩、檜笠、木地挽物等皆三河物產ニシテ尚ホ各地物產ヲモ追々取扱申候間御用之節ハ多少ニ拘ラス御購求之程奉希上候也

明治十九年十二月

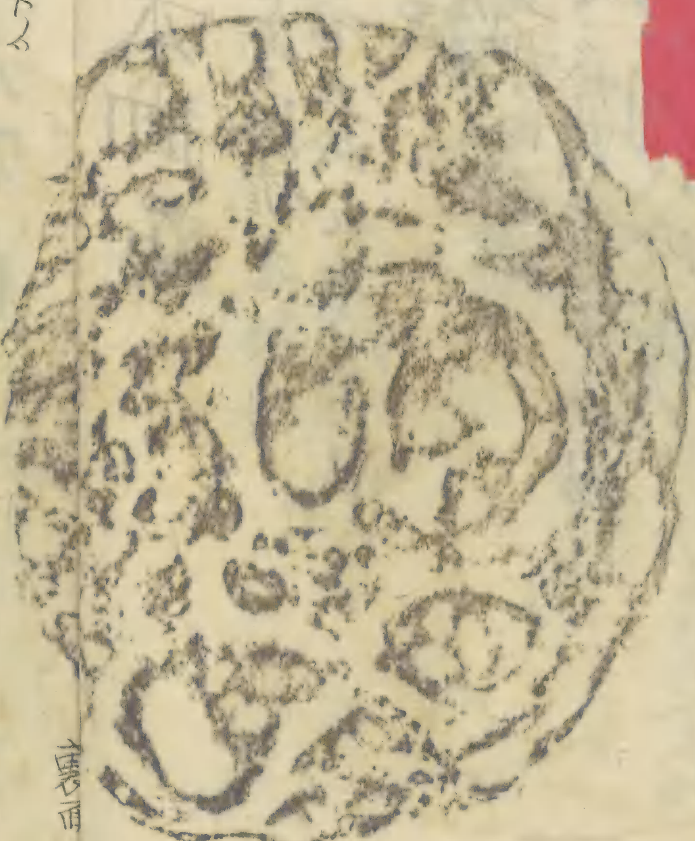
東京牛込區揚場町八番地
有方舍　大橋精次　有方舍主

京橋區木挽町三丁目廿壱番地
有方舍

愛知名産 衣ヶ浦月餅

尾張知多郡
大野製
一口香ノ
月餅

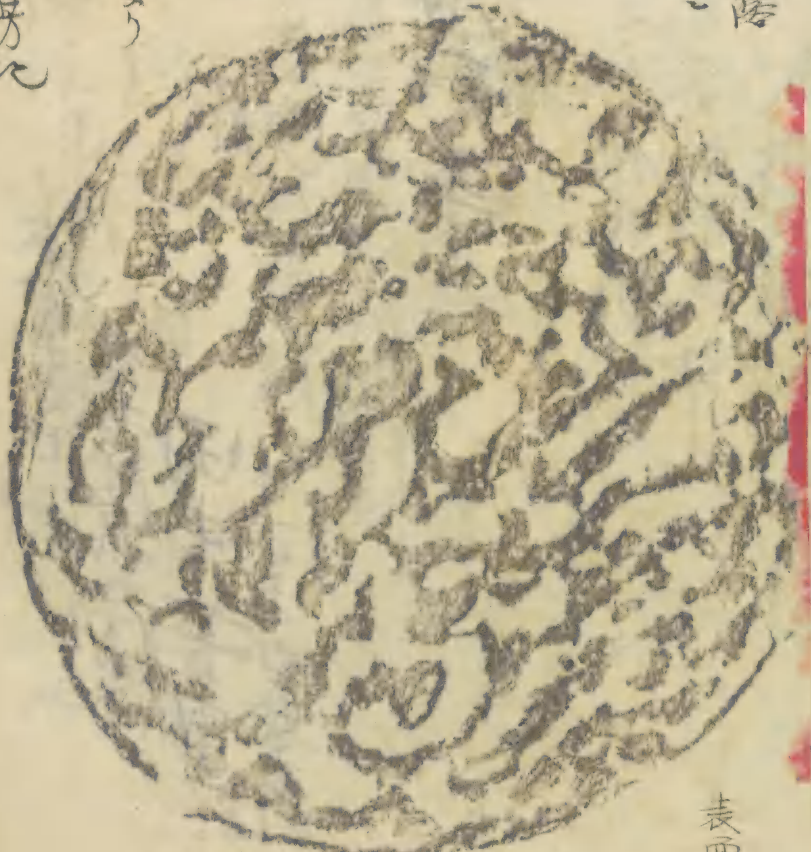
明治十年四月初
[illegible]


裏面

横濱税關構内
開通社

四等牌
居倉森木
雲丹鑵詰
一生雲丹ト呼 [illegible] ハ近來ノ [illegible] シテ
無害有功ノ佳品ナリ則日本水産博覧會ニ於テモ賞牌ヲ授與ス
一用法ハ鑵ヲ開キ味淋ニテ煮又ハ醤油鹽等ヲ取交セ喰スヘシ吸物ニハ熱湯ニ少ク醤油ヲ落シ雲丹五匁ヲ入レ用ユヘシ
一常ニ喰スレハ胃強壮トナリ自ラ身体健全ナラシムヘシ
販賣元
福井片町通
魚町角

先ツ餅形ヲ [illegible]
搗テ手滑カニ又下ハ
手ニテ手ニ敷キ直上ニ
懐中上ニ黒砂糖ノ溶
又麺形ノ作リ
タルヲ滴ラシテ
上面ハ飴ヲ
ヲ載セ懐中スル
モノト思ヘ 麺ノ
御手滑カナルモノ也
懐中ノ如キ形ヲ
ナス 月珠圓ニ似タリ
故ニ此名アルカ
買ハる 田芳記


表面

白手妻

卸 作州落合
御菓子處
小賣 本町 鍋屋

大丸屋
大
呉服太物
正札附
引かし
呉服太物
引かし
正札附
大
大丸屋

大丸屋
浅草橋通り瓦町六番地

六月一日ヨリ六日迄
大景物さし上申候
賣出し

大繁昌は雑沓は合 … 正札 … 夏物賣出

COLLYRIUM,
此御藥ハ第一のぼせめ○かすみ目○つきめ○ちめ○たやりめ○ただれめ○目ばし等によし
目藥 精錡水
用ゐ方ハ朝ひる晩と三度ヅヽ筆にてさすべし
東京 銀座二丁目 岸田吟香謹製

いせや　伊勢屋　いせや　伊勢屋

呉服太物賣出

廣告

諸君益々御機嫌能被爲入奉恭賀候隨て弊店儀從來呉服類營業罷在候處幸に諸君の御高評を蒙り日に增月に盛業に趣き冥加至極難有不淺奉厚謝候
偖て諸君御承諾の通り近來何商賣も兎角競爭賣々流行なれど其實勉強ならず麁惡の物品を賣店多き爲品質精良を販賣する同業店の面目を失なひ左れど弊店の儀は此商人の如きを遺感に思ひ品質良精なるを廉價に販賣する爲め前年に比れは物品の賣れ高[illegible]猶一層御爲筋專一の品廉價を以て例年の通り夏物賣始仕候間多少共御用向き被仰付度伏て奉願上候

湯島六丁目
伊勢屋庄兵衛

来ル六月一日二日三日　當日粗景差上申候

領收之證

一 [illegible]
[illegible]
一個

明治十九年九月十七日

田中芳男[illegible]殿

博物館

証 第〇二七六〇號

一金[illegible]

但官報代價[illegible]

右正ニ領收候也

明治十九年三月十二日

官報賣捌掛長

御用掛山尾常治

田中芳男殿

証 第一五一〇五號

一金参圓也

但官報第七〇〇號ヨリ第一〇〇〇號ニ至ル 一〇〇部代

右正ニ領收候也

明治十八年十月廿一日

官報賣捌掛長

御用掛山尾常治

田中芳男殿

證第七八號

一金[illegible]

但官報代價[illegible]

右正ニ領收候也

明治十九年九月廿日

内閣官報局

内閣屬小原澤重雄

田中芳男殿

領收證

一 [illegible]

但 [illegible]

右致落手候也

十年七月九日

[illegible]

田中様

受領之證

一 [illegible] 三鏡

七月二十日 池田

田中芳男殿

二号半田丸積送証

一 本酒 壱斗入 壱樽

但進呈

右ハ津路閑傳取ニ積下在地

明治十九年十二月十八日

尾張国知多郡小鈴谷

盛田久左衛門

手形料 持出屋 左重

本郷金助町十二番地

田中芳男殿

執事御中

萬和運送証

柳樽壱個 但之在判

右之通 [illegible]

十一月三元

東京本所区亀沢町七丁目三番地

熱海浜蔵

富士見 [illegible]

田中芳男殿

東京米六 十二月

記

一金 廿五戔

渡料 樽代

右之通り正ニ受取申候也

二月上日

湯島天神下 [illegible]

角長

田中様

証

一 運賃

一 配達賃

合計

右正ニ受取候也

二十年七月八日

上野ステーション前
内國通運會社支店

一金壹錢

配達賃

實地取調候處更ニ無之候也

明治二十年一月十三日

東京遞信管理局

市内監視員

第　　號

證

原價

一

右之品封印之儘正ニ受取配達仕候

但原價三圓以上ノ品ハ包紙或ハ屆先名宛ノ附札ヘ品名原價御記載被下度若御書記無之品ハ三圓以下ノ物品トミナシ取計可申候〇不着取調ハ三週間限リノ事

明治七年八月九日

京橋區南傳馬町一丁目十八番地
品物配達所

記

右正ニ請取申候也

送荷券

荷數	立替	年月日時着 / 時發	出所	着所
量	運賃	中牛馬會社		保送人

原價圓以下

賃済

鐵投所發兌

証

右正ニ領收致候也

明治九年十二月七日

洋酒店

東京日本橋區横山町三丁目角足袋卸小賣　布川屋七兵衛
同　京橋區南傳馬町二丁目四番地洋品店　松島屋省三
同　本所區菊川町二丁目五十七番地茶舗　竹内定吉
同　日本橋區米澤町三丁目三番地足袋店
同　下谷區北稻荷町八番地きせる店
同　京橋區靈岸島長崎町一丁目九番地
同　日本橋區鎧嶋町一丁目六番地
同　芝區新櫻田町拾七番地足袋店
同　下谷區下谷町二丁目五番地洋品店
同　上野停車場中洋品店
武州大宮在大成村
（古村・澤田・丸木屋・關口・田口又市 等）[illegible]

取次販賣所

一風濕貼布藥　名リウマチス　本舗　東京馬喰町三丁目廿番地　三橋新藏

調製所本舗　東京神田區末廣町五番地　三橋彦二郎謹製

用法

一　大人ハ一日ニ貳回或ハ三回一回ニ十滴ヨリ十五滴ヲ限トシ小兒ハ大人ノ半量ヲ取ルヘシ
一　食后ニ盃一杯程の水に注ぎて飲むべし　苦味ヲ嫌フ者ハ砂糖ヲ加フヘシ　七才ヨリ十五才以下ノ者ハ[illegible]

主治

腸胃の働きを壯にし食物を能く消化して身体を健康に保ち精神を活潑ならしむるの効あるものなり
○食物の消化わるきもの　○留飲　○重病のあと　○腹痛　○下痢　○酒客の腹のはるもの　○胸の氣分わるきもの　○氣分の鬱するとき　○暑氣あたり　○腹のはるとき　○間欠熱　○食物の進まぬもの　[illegible]

[illegible]

官許　日本ビツトル

定價　小瓶金拾錢　中瓶金貳拾錢　大瓶金三拾錢

官許
日本ビツトル
東京神田區末廣町五番地
本舗　三橋彦二郎謹製

日本ビツトル本舗　三橋封印

女子洋服簡易夏服大安賣之廣告

一意外之御好評を被り望外の繁昌を來たし難有奉存候扨目下大暑之折柄に付時侯に適し候夏服左之直段まて大安賣仕候間不相變御注文奉願上候

一木綿更紗せんたく受合

六才七才	九拾錢
九才十才	壹圓廿錢
十二三才	一圓五十錢

夏服者御披露之爲別格安直に候右之外仕立地質裁縫共御好に寄り如何程上等ふても右ニ準し廉價にて奉調進候
右之通り別格安直に御座候得共歐米流行之新風ニ倣ひ居候間決して洋風紛ひのアイマイ仕立ニ無之候
○いかる程遠方ふても御沙汰次第罷出早速御用達可仕候

西京呉服 ちり面るい 帯地類　京都支店　井筒屋
日本橋大通本銀町三丁目一番地

十六歳祭 賣出し

廣告

當場各位之御贔屓ヲ以テ日ニ月ニ盛大ニ立至リ難有仕合奉鳴謝候例年ノ通来六月一日ヨリ三日間夏物賣出シ執行仕候間多少共御用向奉希上候也

上野廣小路　杉山勸業場
出品人中

六月一日 二日 三日　三日間麁景呈上仕候
但雨天順延之事

洋菓子本舗

京橋區南鍋町

風月堂

和洋菓子

一最上製カステーラ　一煉羊羹各種
一上製蒸菓子數種　一干菓子各種
一精製春日の饅頭　其他色々
一乾蒸餅（洋名ビスケット）　一ケンデー數品（飾菓子品）
一デセール數品　一フロンケーク（名銘酒入品）
一ケーキ數品　一ボンボン（數）

内外名位ノ御愛顧ニ頼リ日ニ増シ繁盛仕リ感鳴ノ至リニ候就テハ諸品トモ上等ヲ撰ヒ一層改良ヲ加ヘ御滋養ヲ主トシ勉メテ廉價ヲ以テ販賣シ治子ノ御需用ニ應セシス希クハ舊ニ倍シ陸續御購求アランヿヲ祈ル

米津松造 敬白

鷄卵

拙家ニ製ス寳丹ノ儀ハ大ニ諸症ニ俾益アルヲ以テ世上ノ恩顧ヲ蒙ルヿ殊ニ厚シ然ルニ方今類似ノ寳丹甚ダ多ク為ニ愚客ノ御疑惑少ナカラザル趣屢傳承仕實ニ恐痛ノ際客歳太政官第十九號ヲ以テ商標條例ノ御發布アルニヨリ今ヤ寳丹ヘ附記ノ商標ニハ皇朝三種ノ神器ノ一ナル八頭鏡ニ光輝ヲ發スル所ノ形像ヲ以テ登録ノ儀ヲ出願セシニ今ヤ御許可ヲ蒙リ候間乃チ爾来發行ノ寳丹ニハ悉ク右ノ商標ヲ記載仕候条江湖愛顧ノ諸君宜シク御撿證ヲ賜ランヿヲ奉伏願候也

乙酉六月良辰

本舗世嗣主 守田治兵衛

四十三貼入金三拾錢

總テ飲食ノ不良或ハ不消化又ハ過量ナルヨリ發スル胃腸ノ諸症ヲ根治スルノ良劑也

陸軍々醫監 従五位緒方先生方劑

緒方局法 胃散

本店 東京神田區表神保町壹番地 知新堂謹製

發賣 同深川區西森下町三拾四番地 東永堂池上

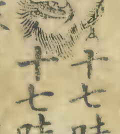
創業大取次

東京村松町	岩浪長藏
同ギンザ	佐々木玄兵衛
同バン丁	両宮藤吉
同上槇町	安川榮次郎
同新肴町	國米精一
大阪今バシ	齊藤彦三郎
西京大宮通	河津善兵衛
周防山口	安部半助
土州高知	櫻木康枝
伊豫卯ノ町	清水長十郎
長門馬関	杉登代
豊後大分	白井吉太郎

大阪心斎橋筋南 便利大販賣所 宝丹支店勉強堂

東京神田區表神保町壹番地小林謙三謹製

官許 神十七味 十七味水 李家 てんぐや 田



本郷金助町七十二番地
田中芳男様
田中むつ

本郷金助町七十二番地
田中芳男様

右者今般當附屬小學校ニ於テ等級ヲ改正シテ八級ニ編成候ニ就キ第七年級ニ假編入候條此段申進候也

明治十九年三月八日

東京師範學校附屬小學校

田中芳男殿

東京小石川區江戸川町六番地
中村正直

東京神田區今川小路二丁目
田中芳男様

東京府

農商務省
會計局出納課

發兌書目

佛國醫學教授醫博士ジエー、ジー、ウイツト、コースキ氏原著
英國醫學士センブル氏英譯
日本 安藤正胤 丸川仙二郎 重譯

人身 剪形剖體圖解 全七册

第一 頸及軀幹之部 金三圓五拾錢
第二 婦人生殖器之部 金貳圓五拾錢
第三 男子生殖器之部 金貳圓五拾錢
第四 眼球及視官裝置
第五 耳及齒牙
第六 腦、大腦、小腦
第七 咽喉、舌、聲音、言語
近刻

安本德寬編 松原新之助閲
植物書 學校教課用 圖入全壹册 定價金五拾錢

安本德寬編 松原新之助閲
動物書 學校教課用 圖入全壹册 定價金五拾錢

駒場農學校編
農學叢誌 第壹號 壹册 定價金七拾五錢 (但郵便税共)

故紀藩 畔田翠山源伴存先生撰
古名録 全部八十五巻 合本四十三册
壹册定價金三拾錢 三割引金貳拾壹錢 外ニ郵便税金八錢
明治十八年五月より壹册ツヽ豫約出版

明治二十年 月 日

印刷製本發兌元
東京兜町壹番地
製紙分社
製紙分社
賣捌
同通三丁目十四番地
丸善書店

唐和砂糖類
金米糖類
砂唐漬類
本郷二丁目
朝田屋専助

上等
昆布製
芳玉露
上田武左衛門

今村八五郎

京三條
大黒
橋西へ入

堅
鰹節
問屋
糀町三丁目角
万屋傳兵衛

御まむし

元祖
十一味
本郷二丁目

私妻明子儀病氣之處療養
生相叶ス昨十二日午後二時
死去致候ニ付來ル十六日午
後二時出棺青山墓地ニ於テ
葬儀相營候此段為御知
申上候也

四月十三日　伯爵大木喬任

田中芳男殿

親戚伯爵大木喬任妻葬式之
節ハ遠路御會葬被下奉拝謝候
右為御禮參上可申上之處
乍略儀以書中御挨拶
申述度如斯御座候

四月十九日　子爵酒井忠匡

田中芳男殿

來ル六月一日亡妻五週祭執行候ニ付御
麁末ニ候得共此品贈呈仕候間御落手被
下度候　敬白

明治二十年五月

池田謙齋

田中芳男殿

[illegible]

豐臣太閤不世出ノ資ヲ以テ　皇室式微群雄割據ノ時ニ當リ西征東伐十數年ニシテ禍亂ヲ戡定シ　皇室ヲ富嶽ノ安ニ置キ海內生靈ヲシテ塗炭ノ苦ヲ免レシム其豐功偉勳固ヨリ喋々ヲ待タス而シテ東山ノ祠宇モ不幸元和ノ毀壞ヲ經テ堙晦ニ歸ス維新ノ初其偉績ヲ追想セラレ再興ノ特旨ヲ下シ別格官幣社ノ列ニ陞シ公ノ祭祀ヲシテ永遠絕ユルコトナカラシムト雖モ其阿彌陀峯ノ墳墓ニ至リテハ苔蘚塚ヲ覆ヒ兆域狹隘徑路莽蕪人ヲシテ彷徨趦趄ノ歎アラシム公ノ勳勞ニシテ其墳墓如此今日ノ昭代猶棄テ顧ミサレハ數百年ノ後敗壞ノ極其蹟ヲ留メサルニ至ルモ測リ難シ近時外客好ンテ京畿ノ遊ヲナシ公ノ偉業ヲ思ヒ公ノ墳墓ヲ吊スルモノ亦少ナカラス而シテ此ノ荒涼蕪穢ノ狀ヲ目擊セシムルハ光善輩ノ慨歎ニ堪サル所ナリ因テ光善首唱者トナリ其墳墓ヲ修理シ徑路ヲ營繕シ憑吊ノ者ヲシテ登陟ノ艱ナカラシメンカ爲メ廣ク有志ノ貴紳名族及ヒ由緒アル諸家ニ謀リ徧ク義捐ヲ募リ以テ公ノ遺跡ヲ保存スルノ擧ヲ果サントス伏願クハ區々ノ微衷ヲ察シ特ニ金圓下賜ノ恩命アランコトヲ恐惶敬白

明治二十年五月二十五日

豐國神社宮司
從五位子爵日野西光善

宮內大臣伯爵伊藤博文殿

豐國神社宮司

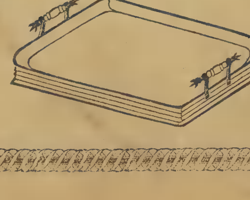
今般京都府下阿彌陀峯之墳墓修營之趣被聞食金千圓下賜候事

明治二十年六月廿七日

宮內省

改良指物廣告

一弊店從來指物家具類營業仕候處華客ノ愛顧ニ因リ日々繁盛候段奉厚謝候尙又先般東京府勸工塲工藝見本館內ニ陳列之農商務省工商務局御備見本品中家具指物ニ關係ノ品々弊店製造處ニテ是ヲ始メテ摸造致或ハ其製法ニ據リテ從來品々改良ヲ爲シ先英製ノ疊椅子並ニ通ヒ盆數品ヲ試製致候處忽チユ賣捌ケ且ツ先般府廳ニテ御開設之共進會エ右ノ品ヲ出品致シ候處幸ヒニシテ褒狀ヲ賜ハルハ是ヨリ御注文ヲ受候處右疊椅子之義ハ世ニ便利ナルコトハ諸君之熟知スル處也然ルニ追々同商業ニテモ製造致候樣子是又販路廣充トノ風聞有是全ク聖世ノ恩澤是ニ不過依テ弊店製造塲ニ於テモ振テ改良ノ点ヲ思考シ此寐臺椅子エ枕ヲ附シ或ハ枕取ハヅシ自由且又此寐臺ハ兩足地ニ落チテ寐臺專用ノ便ヲ欠キ候故ニ是ニ小形寐臺ナル者ヲ附セバ全クノ寐臺ニ必用之器具ト成ル夫レ而已ナラス此小寐臺ノ敷物ヲ卷ケハ矢張椅子ニモ相成至極便利成ル附屬品ニ御坐候尙又追々更ニ良工ヲ増シ該摸造品ハ申ニ不及從來指物柴檀黑檀鉄刀木南部桐桑櫻木地製ニテ書棚机茶簞笥花臺高卓又ハ火鉢莨盆茶盆其他清樂器月琴類ハ諸流御好ニ應シ總テ其用途ヲ考ヘテ改良ヲ加ヘ而シテ有名大家之品評ヲ乞候上賣出シ別段出精製造仕候間舊ニ倍シ御購求御注文被下候樣奉願上候也



東京府勸工塲物品陳列處
出品人　河合萬助

本鄉區湯島切通坂町八番地
河合製造所

仝區春木町三丁目三十五番地
本店紙両替尺度賣捌處
河合萬助

御注文之御品ハ右三ケ所何レニテモ引合申上第一安價ヲ旨トシ速ニ製造致シ相納メ可申候

妙品
諸流筆
東京 征久堂
堀甫吉 撰製

博覧會場
賣品之證

御
用
御菓子司
日光 本町壹丁目
綿屋半兵衛

ねりようかん

陸家千古有餘流滿園
雲芽遂嵗稠清事葉
淺清逼貴居然意見拜晩
甘傒種茶詞挽嵏

山城園

半嶺篆

茶肆
中村
甚兵衛

京橋區
采女町
十番地

衛生
滋養
菓子
調進所

芝區新櫻田町壹番地角中村安七製

K hashndoo. K

應需画
雪田廿八

名物
帯菜根
旅
亀田製
志摩國南杉浦中之郷町

明治廿二年六月手

遠芳
笠沙月餅
一百六十番開張

名物

用法

亀田製

為継
信蔭
信義
信海
守圓
女子四人

左京権大夫 法名寂西
初隆實 文永二年卒八十九

伊信

為理 正和三年従三位
同五年卒

信藤
為茂
豪信

[illegible]

為継 — 信蔭 — 信義 — 信海 — 守圓 — 女子 — 四人

左京權大夫 法名寂西
初隆實 文永二年卒八十九

伊信

爲理 正和三年従三位 同五年卒

信藤 — 爲茂 — 豪信

[illegible]

明治六年六月写

遠芳

苣沙月餅

南三湾貢

一百六十番開張

名メヒヒ

帯菜根

産

志摩國鳥羽村池中之郷町

㊉ 亀田製

用法

[illegible]

㊉

亀田製

明治十年一月改正 日本地誌略圖解 佐藤泰通著 二

戴隆泰號

本號向在紹興府山陰縣利濟
橋南首第十家開張自造精工
各種時様蘇式松牋頂重雄牋
描金碌砂雙衢梅紅宮緑金牋
鴛鴦禮帖各色紙張俱全 士
商賜顧者請認招牌爲記謹白

隆泰

加色上勝

菜海苔

信州小布施中町

養生
旭麦茶

肺。胃。腸。水腫。脚氣。

神田區南神保町十番地
千葉屋

諸國
御銘茶處

山城軒

東京本郷壹町目
三吉園喜助

高 春 知

本郷二丁目北側
生菓子所
春榮堂

筒入大形小形小袋入共ニ各賣捌所ヘ配置申候
袋入一斤半斤ハ御需ニ應ジ調製仕候

製造法
新發明

日本代用咖啡

〔製造法發明略説〕夫咖啡ノ世ニ行ハル、ヤ亞非利加土人是ヲ發見シ飲用セルヨリ洋客ノ嗜好飲料トハナレリ其性質頗ル我國ノ茶ト同一ナル者ナレハ彼ニ於テハ我國ノ茶ト同シク朝夕之ヲ嗜マサル者ナク其産出ナキ地ニ於テハ之カ代用品ヲ製出ス是レ他ナシ嗜好ノ物タル爲ニ國財ノ濫出ヲ恐ルヽト嗜欲ヲ滿足セシムルニアルナリ抑モ我國ノ晩近ノ情態ヲ觀察スルニ事物日ヲ逐テ開明ノ域ニ進歩スルニ隨テ飲用嗜好物モ亦新奇ヲ好ミ咖啡ヲ嗜ム人日一日ト多キヲ加ヘ漸次輸入增加セントスルニ至レリ我國素ヨリ豐饒ノ地百物具備セルハナク咖啡ノ如キモ已ニ産出アリト雖モ需用ヲ滿足セシムルニ足ラサレハ之ガ代用物ヲ製出セントス余夙ニ志ヲ此製造法ニ注キ數回ノ試驗竟ニ有益ナル世上無比ノ代用咖啡ヲ製出セリ是レ即チ此代用咖啡ハ其原質蛋白澱粉ノ多量ヲ含ムカ故ニ滋養多クシテ咖啡ノ如ク逆上スル事ナケレハ腦病ヲ患フル君子咖啡ニ代用シ玉ハヽ裨益少ナカラサルヘク加之常ニ飲用スル諸君ハ食物ノ消化ヲ助ケ尿利ヲ催進シ脚氣水腫ヲ病ムノ患ナシ之レ醫員ノ許ス處ナリ其他鴻益アル枚擧スヘカラスト雖モ余ハ詳細ニ縷述スルヲ措テ只製造法發明ノ要ヲ摘記ス請フ諸君之ヲ嘉納シ陸續購求アランヿヲ

製造法發明人 正木葛謹述

〔飲用法大意〕此代用咖啡ノ用ヒ方ハ茶滓留ヲ付タル土瓶又ハ茶滓留ノ細キ急須(萬古燒)等ヘ粉末ヲ酒飲猪口ニ一盃乃至半分程適宜ニ入レ泡沸湯ヲ一合モ許ヲ注入シ沈底ヲ待テ湯液ヲ茶碗ニ移シ適宜ニ白糖ヲ加テ用フル者ナリ若シ泡沸湯ナキ時ハ温湯ニテモ火ニ上ケテ適度ノ温ヲ與フレハ用フルヲ得ヘシ又通常咖啡ノ如ク滲出器ヲ用ヒ或ハ囊ニ入レテ土瓶又ハ急須ニ入レ用フルモヨシ濃キヲ好マハ粉末一盃半ヲ用ヒタマヘ其餘ハ益ナシ火上ニ一沸ヲヨシトス煎沸スレハ濃クナルノミナラズ味モ亦美好ナルナリ又火ニ上ケズシテ用ヒタルハ煎スレハ再用フルヲ得ヘシ其他牛乳ヲ加ヘ或ハ氷ヲ交テ冷ナラシムル等通常咖啡ニ異ルヿナク濃キモ淡キモ好ニヨル可シ

製造兼賣捌元 東京本所區南二葉町十四番地 正木葛

賣捌元 同 下谷御徒町壹丁目廿四番地 大澤釜吉

大賣捌
同 神田和泉町一番地 播陽堂
同 芝赤羽根橋通松本町 茶商 鳥海吉二郎
同 兩國米澤町二丁目 藥舗 吉田安五郎
同 神田淡路町 龜屋商廛

此外賣捌所々ニ有之候

大日本農會
蕃茄水煮
三田育種場試製

THE INVENTOR MASAKI KATURA. No. 14. MINAMI FUTABA CHIO HONJOKU TOKYO JAPAN.
JAPAN INSTED OF COFFEE
日本代用咖啡
製造法發明人 正木
滋養之飲料 脚氣之豫防
MORE MEN IS NOT GET DEROPSG OF THE LEGS WHO US THIS COFFEE WHICH IS CONTAIN NOURISH.
東京本所區南二葉町十四番地

印箋

寫山人 百拜

此印以餘年石為材賦之似埤堞面乎軟也ム羽松白寫山人篆餘

東陽 倣淫亭

大日本製藥會社製

香水春の露　壹瓶　定價金五拾錢

仝　都の春　仝　仝三拾五錢

仝　花の露　仝　仝貳拾錢

薄荷晶　一個　定價金拾貳錢五厘

薄荷晶ハ近來我日本名産の一として歐米諸國ニ奇賞妙讃を博し得たる薄荷葉の純精成分ニして殊ニ本品ハ特別の趣向を以て便利の形狀となしたれバ人々常ニ袖中ニ貯ふる時ハ必要ニ臨ミ何時ニても使用せるを得べし而して其用法も甚ざ容易無造作ニして蓋子を取り直ニ〔図〕形の白晶を以て前額の邊又ハ其他身躰の各部但し眼ニ入れバ滲ミ痛むをを以て注意すべしを數回摩擦するニ過ぎず宜ふり近年日本有名の産物となりて廣く東西洋の間ニ行ハるゝや然るニ其本國たる吾日本ニ於てハ未ざ之れを使用せる者少ふきを歎し茲ニ原質の最も純良ふるものを撰ミ國産の妙用特り外人の獨占ニ歸せざらんとを希ひ廣く帝國内ニ發賣せるものなり

但し手柄より離るゝときハ薄荷晶のもとを温め附着すべし

○衛生 葡萄鹽（一名衛生沸騰散）　一瓶　定價金貳拾錢

此葡萄鹽ハ清涼疎滌の力を有し其大躰ハ從來世ニ行ハるゝ沸騰散枸櫞酸マグ子シヤ等ニ類すれども沸騰散の無力ふるが如きニあらず又枸櫞散マク子シヤの往々腹痛を起せが如き害もふく其調節の力誠ニ中和の中を得たるものふり之れを冷水ニ入れて飲用すれバ啻ニ暑中の飲料たるのミあらず旅行船中等ニ之れを携ふれバ自ら便秘を避け停滯不消化を防ぎ實ニ護身の要具たるや決して疑を容れざるの良品ふり

貯藏法　使用後善く密栓し空氣の侵入を防ぐべし（仕用法）一茶匙より二茶匙を一杯の水ニ入れ沸騰中ニ飲むべし又白糖を加へて飲むも可ふり

○明の露（口そゝぎ水）　一瓶　定價金貳拾五錢

口ハ衛生の門戸ニして其要愼一日も怠るべからず文明國人の最も口中洗滌ニ注意するものハ朝起の節ハ勿論毎食後ニも必ず芳香清涼の液を加へたる冷水又ハ温湯ニて丁寧ニ洗嗽せるや已ニ世人の熟知する所ふり然るニ本邦ニ於てハ種々の齒磨粉を用ゐて齒牙を洗淨せるハ舊來の習ひふれ共口を嗽ぐニハ單純の生水又ハ温湯のみを用ゐ別ニ有効の藥液を加ふる者ふし是れ誠ニ衛生の欠典と云ふべし此の明の露ハ獨佛兩國ニ行ハるゝ洗口液の諸方ニ基き尤も本邦人ニ適當せる樣調製したるものふれバ朝起ハ勿論食後ニも微温湯或ハ冷水ニ滴し含嗽せる時ハ口中及び齒牙の攝生ハ素より間接ニハ食物の消化を助け又生水の中ニ含有せるの恐ある種々の病芽を撲滅せるの力ある者ニて其効益最も廣し且つ此液ハ全く無害の性質ふれバ嚥ミ込む事あるも更ニ一點の害ふき事ハ万々保證する所ふり（仕用法）十滴より二十滴を一杯の水ニ入れ含嗽すべし

○コールドクリーム（一名春の雪）　大一個　定價金拾錢　小一個　定價金六錢

衣服、帽、靴等を清潔無瑕ならしむるハ已ニ文明社會の責任ふり況んや我れ天然の皮膚ニ於て清潔無瑕の美稱を受け得ざれバ人たるの品位ニ於て劣り陋しきの辱を免がれざるべし身躰の外殊ニ皮膚の理瑕とも稱すべきハ顔面手肢の粗糙、口唇の皸裂等ニして汚垢の如きハ石鹼ニて一朝ニ洗ひ去り得べきも以上の理瑕ハ平生皮膚の攝生を能くし寒暑の氣候を問ハず怠たらず手を盡して回復の道を求むるニあらざれバ清潔無瑕の場合ニハ至り難し而して其手術ハ他ふし時々此の「コールドクリーム」を皮膚殊ニ外面ニ現ハるゝ顔面手肢の各部ニ塗擦するニあり去れバ西洋文明の諸國殊ニ貴婦人社會ハ勿論小兒と雖ども平素一人として之を用ひざるハふく外出ニも必らず携へ離らすを常とせり其雪膚水肌の皎潔潤澤ふる豈徒爾ニして得たるものあらんや故ニ本邦の貴夫人令孃ハ申をまでもふく凡そ皮膚の清潔無瑕ニして文明人たるニ恥ぢざらんとせる人ハ常ニ此の「コールドクリーム」を用ゐて天然の美質を傷つけざる樣注意あらん事を深く希望ニ堪べざる所ふり

但し此の「コールドクリーム」ハ手指及び衣中ニ附着するも決して他の膏藥の如く油臭し又油染る等の患ひふければ少しも懸念ふく需用あるべし

貯藏法　温暖の處ニ置く時ハ溶解し易き故成るべく冷所へ貯へ置くべし

○初梅　一個　定價金貳錢

肌質の滑澤ふるハ素より人の天性ふれども寒暑氣候の變化又ハ水火を取扱ふ日々の業務ニよりて往々荒蕪粗糙の有樣ニ陷るハ患ふべきの限りと云ふべし此初梅ハ寒暑の變、水火の侵しニ打勝ちて能く肌膚の美質を保ち初梅の色滿らうニ匂ひやらしきが如き狀態を得せしむるの巨益あるものふり且其價も分外ニ廉ふれバ上下をしふへて需要ニ應ずべき重寶の良品ふり

貯藏法　温煖の所ニ置くときハ溶解し易き故成るべく冷所ニ貯へ置くべし

東京京橋區木挽町八丁目壹番地

大日本製藥會社

文華園

學校用数品

御筆墨硯所

本郷壹丁目小法師志津摩

加賀金澤片町

御菓子所

[illegible]

[illegible]名物

仕込所

[illegible]味噌

本家 松屋新左衛門

ASADA-BEER
BREWED BY
NAKANO TOKIO JAPAN
日本帝國東京中野
淺田麥酒醸造所

ASADA-BEER
BREWED BY
NAKANO TOKIO JAPAN
日本帝國東京中野
淺田麥酒醸造所

帝國淺田麥酒
TRADE MARK
REGISTERED
ASADA-BEER

帝國淺田麥酒
TRADE MARK
REGISTERED
ASADA-BEER

萬國第一等阿廣羅社醸造
Sole Importer for JAPAN
獅々ビール

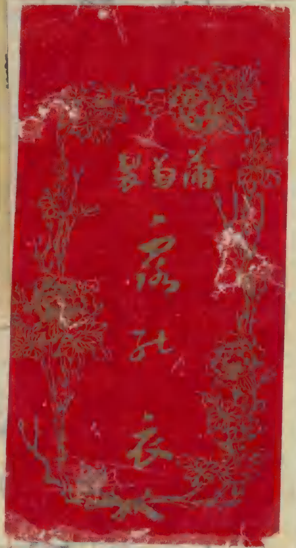
EXPORT BIER
GARANTIRT REIN HOPFEN UND MALZ
M. OGURA & Co. BREMEN

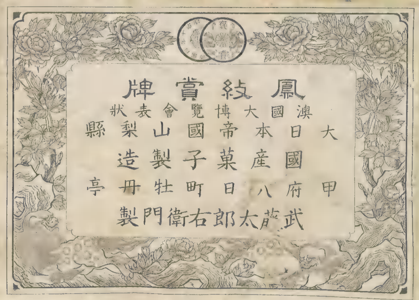
大日本宮崎縣日向國
MEI. TAMANOI. SHIU
商標
玉の井
東諸縣郡高岡町
清水八郎左衛門醸造

PRESERVED BEEF

壺屋出羽
日本東京西久保八幡町
本店
新橋日吉町支店
BRANCH NISHINOKUBO, YAWATACHŌ
HIYOSHICHŌ SHINBASHI
FRENCH ENGLISH & AMERICAN BISCUIT
GROCERIES, PROVISIONS
CAKES, LIQUORS, CIGARS,
CIGARETTES, PIPES
& C.
TSUBOYA.

磯部鑛泉場
博愛社前田道方製




鳳紋賞牌
澳國大博覽會表状
大日本帝國山梨縣
國産菓子製造
甲府八日町牡丹亭
武藤太郎右衛門製

鰹節 鶏卵 開店御披露

[illegible]

昆布の[illegible]安賣[illegible]

[illegible]

本郷二丁目若松屋同店

御結納御進物 鰹節玉子問屋 若井商店

田中[illegible]

古曽部 赤ハタ 吉向 竃元

御茶方向 御煎茶用 陶器類數種販賣處 并御酒器品々

右直段格別相働奉差上候間 不限多少御用向偏奉願上候

商標 (天) 梅暁堂 大阪西横堀石屋橋西詰 福田喜兵衛

水西道人寫

加賀國産
半製雲丹

半製海膽

海膽の製造法種々なれ共北陸の産ハ練海膽生海膽の二種とす而して其練海膽と稱するものハ生海膽を漉過たるに過ぎず北陸地方の人ハ練海膽にハ往々混和物有るを嫌ひ率ね生海膽を貴重すと雖府下に於てハ之を販賣するもの甚稀なり今拙店にて販賣するものハ加賀産好品の生海膽なるを生海膽と讀誤り易きを以て故さらに半製の名を下したるものにて其價も至極廉なれバ伏して乞ふ江湖の君子御購買御試嘗給はらんことを

本郷區本郷四丁目十番地
加賀屋

同區同町九番地
東屋

味醂糟漬
通名ならづけ

諸君子の

新町通二丁目
幾むら

交友社博物會縱覽證
明治廿一年十二月二十五日
自午前九時
至午后五時
於桑名淨土寺

水産者
天賦之
寶庫

明治十七年十一月
田中芳男閲了題

官禮茶食
中秋月餅
百菓桃酥

塩乃満

東京本郷三丁目菓子舗藤村製

両 国 支 店

東京府下
神田淡路町
風月堂
御菓子調進所
穂積峰三郎

春日堅饅頭

養蠶培桑製絲
絲況之要報
專門學士當業
大家之論文
日本蠶業雜誌
（版權所有）
定價前金
（壹部八錢郵便稅壹錢
拾部七拾錢郵便稅拾錢
廿部壹圓廿錢郵便稅廿錢
廣告料壹行拾錢）
每月壹回發行
東京麻布區西町拾四番地
日本蠶業雜誌社
發行者兼編輯者　平野師應
印刷者　間室親遠

THE
JAPANESE SILK CULTURIST.
(NIPPON SANGIŌ ZASSHI.)
A JOURNAL
FOR THE CULTURE
OF SILKWORM, MULBERRY-
TREE, AND THE PRESENT ASPECT
OF SILK COMMERCE WITH THE MOST
RELIABLE CORRESPONDENCE OF
THE SCIENTIFIC MEN
AND PRACTISER.

[ALL RIGHTS RESERVED.]

Published Monthly,
BY
THE NIPPON SANGIŌ ZASSHISHA,
N. HIRANO, PUBLISHER & EDITOR.
C. MAMURO, PRINTER.
No. 14 Nishimachi, Azabuku,
TOKIO.

TERMS IN ADVANCE 8 SEN FOR SINGLE COPIES, 70 SEN FOR 10 COPIES, YEN 1.20 FOR 20 COPIES.
EXTRA POSTAGE 1 SEN EACH COPIES. ADVERTISING RATES 10 SEN PER LINE.

大阪東區本町四丁目十二番地
赤志忠七印

大阪東區本町四丁目十二番地
赤志忠七印

改正第二版
現今活用
記臆一事千金
岸田吟香先生題字　樋口文二郎編
版權所有　赤志忠雅堂藏

伊勢國朝明郡川北村
極上名産御膳太白素麪
筒井庄作製

七
下野産改良干瓢
野州宇都宮挽路町
福田伊勢吉
干瓢組合之印

小間物
花かんざし

本家
御硯所
大日本赤間関
中嶋英信

日本

大日本
高知縣土佐國
吾川郡伊野村
七幸組

七

角觝取組

東ノ方	西ノ方
神田山	梅ヶ崎
若林	笹島
男石	河内山
梅垣	大鳥毛
白猫	海ッ山
谷ノ川	常山
尾州山	清風
虹ヶ嶽	大戸平
立嵐	山ノ上
三ツヶ峯	四ツ車
漣	京ノ里
筆ノ山	小金山
梅林	山田ノ
千代ヶ崎	松林
祇園山	荻ノ濵
劔島	北國
響矢	外ノ海
朝日川	湖
平石	響升
楯甲	高ノ戸
谷ノ音	今泉
鬼鹿毛	芳ノ山
眞力	千年川
司天龍	小錦
平ノ戸	綾浪
眞鶴	常陸山
鬼ヶ谷	八幡山

三役

輌ノ平	海山
大鳴門	西ノ海
劔山	一ノ矢

結

出版人　根岸治右衛門

[illegible]

角觝取組

東ノ方	西ノ方
神田山	梅ケ崎
若林	笹島
男石	河内山
梅垣	大鳥毛
白猫	海ツ山
谷ノ川	常山
尾州山	清風
虹ケ嶽	大戸平
立嵐	山ノ上
三ツケ峯	四ツ車
漣	京ノ里
筆ノ山	小金山
梅林	山田ノ
千代ケ崎	松林
祇園山	荻ノ濵
劔島	北國
響[illegible]矢	外ノ海
朝日川	湖
平石	響升
楯甲	高ノ戸
谷ノ音	今泉
鬼鹿毛	芳ノ山
眞力	千年川
司天龍	小錦
平ノ戸	綾浪
眞鶴	常陸山
鬼ケ谷	八幡山
三	**役**
鞆ノ平	海山
大鳴門	西ノ海
劔山	一ノ矢

結

出版人　根岸治右衛門

[illegible]

大日本帝國農務省專賣特許願中

專賣特許願中 蚕業研究 有益

撿蛆器

蚕業製種家 もちふべし

定價 壹個金五圓八拾錢

外ニ遠近ニ応シ逓送諸費申受

凡我國産にして近来外國へ輸出する所の蚕糸ハ當時世界萬國の屈指たるべし然れども未だ其二三に劣れり願くバ諸君相奮つて抜群優等の位置に進歩せしめん叓を欲す是偏に養蚕家尽力の一点に拠る而已就て最も注意すべき一大要叓あり夫れ養蚕製種を以て業とするもの作の豊凶に拘ハらず常に憂ふる所のものハ蛆害にあり此害の為めに年々二割乃至三割の良繭をして蛆繭とするもの少なゟず是を撿するの術なきに非ざるも古法にして多くハ戸孔に依り太陽の光線を以て弁別する或ハ繭を耳に挿み打して蛹の生死を探り得るの外他に術なきが如し因て明治廿年中一の便益器を発明し撿蛆器と称し蚕業老練の諸君をして是を実地に試むるに其結果宜しきを得て大いに賛成を受け普く蚕業従叓の諸君に使用せしめ廣く其益を知らしめんが為め既に發賣す其功用蛆の奇生有無を撿別するに過る叓なく且つ此の器械を使用すれば婦人小児と雖も一日に拾七八斗の繭の如く内に洋燈を据へ燈力を強うしむる方法を以て其繭を一々撿するに蛆害に罹りたる繭ハ緑色を帯び健蛹の繭ハ光線に中射されて揺動鋭くして其色ハ淡紅色に見ゆ如斯燈火を用るものなれバ可成的闇室を宜とす故に晴雨昼夜を論ぜず何れの時にあるも其欲する所に従つて撿査を達する器械なり養蚕製種を以て業とするもの必ず欠く可らざる重器と云べし

一各府縣下便利を謀り大販賣及び取次所誂器弘め法方御諭導を乞

撿蛆器使用之圖

發明者 関根 御法川 謹白

專賣特許
稲株穿鑿虫退治器 繭蛹熱殺器
畦畔豆蒔付器 撿蛆器
桒茶葉 粟稗穂 摘取器 田の草取
茶摘掌溜器
搨臼籾速挽器械 汲水輪器

農商務省農務局農具製作所製造農具器械各種販賣免許

製造 東京 内國農具改良組本部

發明者 大成教禊教権中講義

發賣元 大日本農會特別會員

関根本部

東京浅草田町二丁目十七番地

関根太左衛門 雅名千則

内國農具改良組東部印

東京淺草北元町弘文堂印

大日本帝國農務省専賣特許願中

専賣 特許 願中 蚕業 有益

繭蛹熱殺器械 そふし

定價 三斗入 壹個金三圓八拾五錢
外ニ遠近ニ応シ逓送諸費申受

近来外交貿易益盛なり我國民として自國の益を謀らざんバ有るべからず是れ國産をして弥々輸出を増埴するに如かず現今我國輸出品中第一等に位する最も力を尽す可きハ蚕糸なり因て爰に蚕業従事の諸君欠く可からざる有益の器具を発賣す夫れ養蚕既に終りて后其繭をして品格を落さゞらしむるの事業ハ養蚕製糸家の最も注意を要す一大緊要とす假令養蚕に力を尽し良繭を収穫するも殺蛹法の宜しきを得ざる時ハ季候の変遷两温に遭ふて忽ち黴繭を生じ為めに一度善良の繭と頼みたるも変じて屑繭となり計らざ大損害を被むることあり故に佛國の如きハ政府より各地方に殺蛹所を設立し之を養蚕家に供共するの法あり又私立殺蛹所を設け杯して殺蛹のこと悉く行届きたりと云ふ然るに我國の如き製絲家に於て各地方より買入たる繭を見るに多くハ殺蛹法の不充分なるが故に良繭をして其品位を落し従て製糸の量目を減し或ハ光沢を失ふる等種々の故障ありて大いに其價格を下落せしむるものなり実に慨嘆の極めならずや尤古来蒸殺器と云ふ物あれ共猶其諸害を防がんとして昨廿年中一の簡便なる繭蛹熱殺器を發明し蚕業老練の諸君をして実地を試みしに其結果宜しきを得たり熱殺したる繭ハ月多く重めるも黴繭等の諸害なく(一度善良の殺蛹したる繭と雖も濕氣を受けざる様貯蔵方尤も注意あるべし)他の蒸殺或るひハ燥殺等にて殺蛹したる繭に比すれバ光沢の善良なるハ論を竢たず解舒容易にして糸量尤も優れり此の熱殺器構造ハ図式の如く内部鉄葉にて作り外部板を以てし底面の中央に釜より蒸気の騰るべき

發明者 関根御法川 謹白

蛹時間を費さゞるも燥殺の如く繭の「ゴム」質を烘り焦すが如き憂なく亦蒸殺の如く煮へ蕩けるの痛みなく而して殺蛹時間の如きハ僅十五分乃至二十分を経て充分殺蛹するに至る熱殺器に大小ありて異なれ共通例三斗入にて一日の使用十時間と見做し八石以上の生繭を殺了するに容易なるべし

此の熱殺器を使用するにハ先づ通常の釜に水八分目を盛り沸騰せしめ熱殺器を釜の上に据へ置き然る后図の如き竹籠(籠ハ繭室の倍を要す)に生繭を入れ一々繭室に投して其上に金巾の切れを覆せ而して蓋を為し蓋の上部にある「ブリキ」筒ハ殺蛹を鑑定する器にして此器に五分位水を盛り之を試むるに湯となり指を入るゝ能はざれば充分蛹の死したると知るべし其死したる頃ハ籠の侭取出し又他の籠と挿し替ふべし

各府縣郡村其他地方の便利を謀り大販賣及び取次所該器弘め法方御諭導を乞ひ升

繭蛹熱殺器使用之圖

専賣特許

稲株穿鑿虫退治器 繭蛹熱殺器
畦畔豆蒔付器 撿蛆器
来茶葉 栗稗穂 摘取器 田の草取
茶摘掌溜器 汲水輪器
摺臼籾速挽器械

農商務省農務局農具製作所製造農具器械各種販賣免許

製造 東京 内國農具改良組本部

發賣元 發明者 大成教教権中講義 大日本農會特別會員

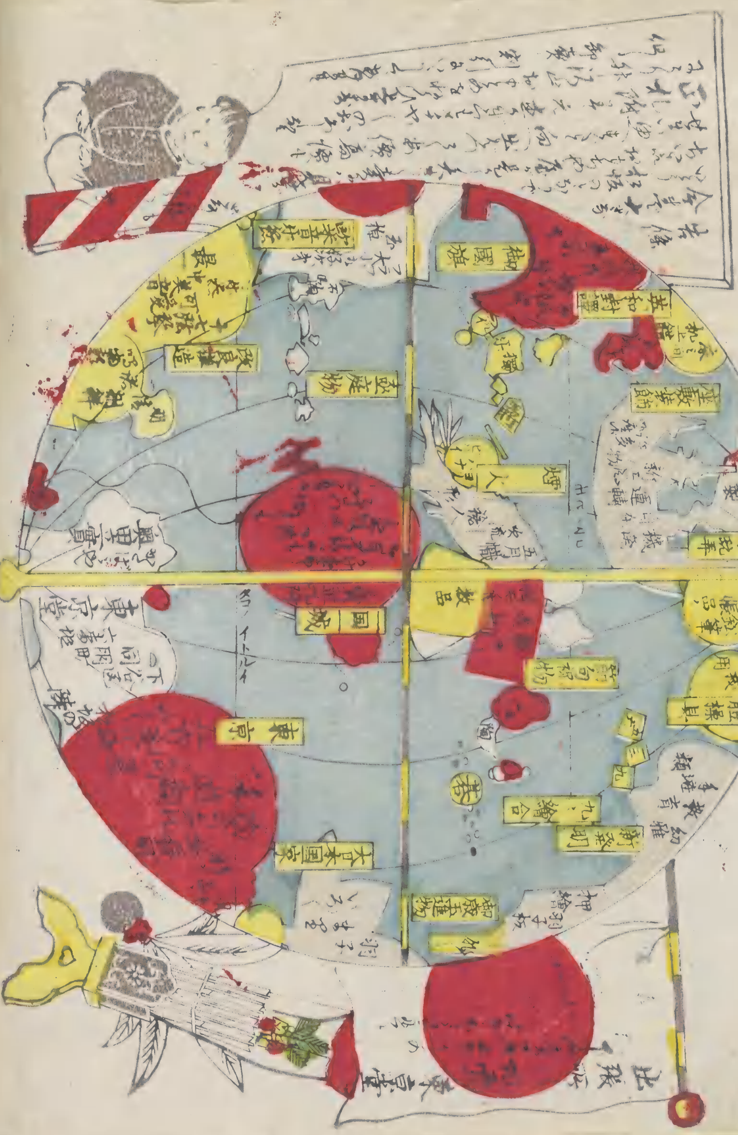
本部 関根

東京浅草田町二丁目十七番地

關根太左衛門 雅名千則

内國農具改良組本部印

本家
吉備名産
餅柚包
根元



大阪府知事建野郷三君題字
府立大阪商業學校編纂

商業規篇

全壹冊　定價金壹圓　實價金七十錢

來ル十九年一月二日發兌

凡ソ商賣ノ業ヲ行ヒ之レヲ以テ平常安逸ヲ得ルハ政府ノ法律頒布アルヲ以テ然ルヿ喋々ヲ要セズ既ニ世人ノ熟知セラル所ト雖モ商家商法律アルヲ知テ其適施スルヲ誤リ間々商律ニ觸レ貴重ノ名譽及ヒ各自ノ財產ヲ失フノ歎アリ是レ今日必修ノ急務タル所以ナリ府知事建野君特ニ此書ニ題スル二商之學亦重矣ト宜ナル哉書ヤ明治元年ヨリ十八年今日ニ至ル迄總テ商業ニ關スル諸則ヲ蒐集網羅漏スナシ是レ商業學校ノ特ニ此書ヲ選シ教科書ニ採用セラレタルヲ以テ精密ニシテ誤脫ノ憂ナキヿヲ證スベシ坊間類書アリト雖モ皆杜撰ノ弊アリ此書ノ如キ未曾有ノ良書ヲ見ズ今特ニ弊舖發兌ノ命ヲ忝ス四方ノ看客購求愛覽アランヿヲ

發兌書林

大阪安土町四丁目
鹿田靜七

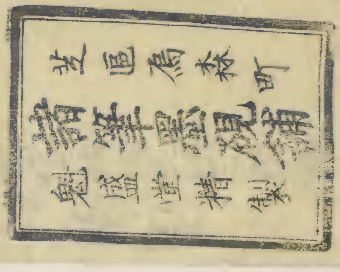
同本町四丁目
岡島眞七

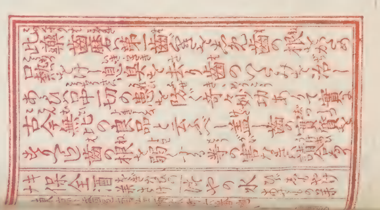
掛竿廣告

發明之原始ハ木ト金屬ヲ以テ作レル者ニシテ板金ヘ三本ノ竿ヲ取付ケ專ラ手拭掛ニ用ヒ兼用ヲナスニ上ヨリ一ノ竿ヲ右ヘ開キ二ノ竿ヲ左ヘ開キ中腹ヨリ出ル者ヲ撮ミ出シ帽子掛ニ用ヒ細キ竿ノ先ニ角穴ノ金屬ヲ附シ三ノ竿ノ中ヘ入置キ好之場所ヘ附着スル時捻シ回シニ用ヒ又其小竿ヲ三ノ竿末端ナル丸キ穴ヘサシ入レ襦袢及混等ヲ掛ルニ用ユヘキ新工ニテ則專賣特許ヲ得タル辨利掛竿是ナリ搆造ノ仕樣三本ノ竿ハ晒竹胡麻竹斑竹ニ搆造ナシタル竹唐木類ハ木地ヲ顯シ檜製ニ者黒並塗堅地塗ニ草木花動物類ノ蒔繪及御定紋ヲ附スヿ御好ニ隨ヒ入念極抵價ニ調進候間澤山御注文ヲ奉祈念候也

東京本郷春木町三丁目三十六番地主
發明人
製造元
千田仁兵衛

販賣御望之方ハ相當之割引仕候間御來談ヲ乞





廣告

農務局蕃產課長兼獸醫課長
大日本農會特別會員　村上要信著

精圖
插入　**養雞の栞**　洋裝美本　全一冊

五月二十日發兌　定價金壹圓

方今養雞の事業大に世に行はれ從て之ゝ關する書籍陸續出版ありと雖飜譯書にあらされは單簡なる一小冊子の類に過きす是れ當業者の太甚憾む所なり村上君は夙に養雞の事業を研究せられ本書ハ君が多年實地の經驗と其曾て濠洲に在りし日親しく見聞せられしことゝを纂修せられたる者にして苟も養雞に關することは細大漏す所無し殊に書中の文字ハ極めて平易を旨とし用語の如きも俗間普通の言辭を用ひられたる者なれは童蒙婦女と雖容易く其意味を解すへく實に完全なる一大良書なり當業者諸君幸に一本を購讀ありて事業の發達を期し給へ但大日本農會員に限り御要望の節は農會事務所平野師應氏迄御申越あるも苦しからす

書中の目次は左の如し

○總論○鷄の學語○鷄の異名○鷄の原產地○鷄の起因○野鷄の種類○外貌の名稱○羽色の通稱○種稱の辨○飼養法○管理法○蕃殖法○選種法○純粹種を得んと欲せは他種と同飼すへからす○稚鷄を早く配合せしむるの弊害○多淫なる雄鷄は種用に適せす○產卵せさる雌鷄を受胎せしむるの方法○卵子と連產せしむるの方法○產卵の平均數幷雛鷲雌雄の比例○巢鷄を作るの方法○孵卵の方法○卵子を撿するの方法○鷄の肉色幷卵色○純粹種の鷄類▲地鷄▲長尾鷄▲南京鷄▲地南京▲矮鷄▲半矮鷄▲蜀鷄▲烏骨鷄▲バンタム種▲瓜哇バンタム種▲南京バンタム種▲北京バンタム種▲セブライト、バンタム種▲漣漴バンタム種▲ブラックロースコンム種▲鬪鷄バンタム種▲パヂュアン種▲クリーパー種△英國鬪雞種▲オルデルビー鬪雞種▲サルモンパイル鬪雞種▲ヂヨルヂアン鬪雞種▲濠洲鬪雞種▲雌尾狀鬪雞種▲印度鬪雞種▲ドルキング種▲西班牙種▲アンダリユーシアン種▲ミノルカ種▲アンコナ種▲レッグホールン種▲ハムボルグ種▲レッドカップハムボルグ種▲波蘭種▲佛國種△ウーダン種▲クレーヴキヨール種▲ラ、フレーシユ種▲ブレダー種△ラ、ブレッシー種▲レ、マンス種▲コールテスパッテユ種▲和蘭種▲瑞士種▲ドミニキユー種▲プリマウスロック種▲ワイアンドット種▲ダンヴルス種▲ゼルシー種▲バックスカウンチース種▲ボルトングレー種▲サルダン種▲交趾種▲ラングシヤン種▲上海種▲チッタゴング種▲ブラマー種▲マレイ種▲カルムス種▲雜種の種類(三十九種)▲日本在來の雜種▲奇異なる鷄類及ひ變化を現すへき鷄類(十九種)▲詳かならさる雜類(五種)畢

發兌
出版主　京橋區北槇町十一番地　須藤一郎
日本橋區通三丁目　丸善商社

げんきん 諸品念入下直
奉差上候

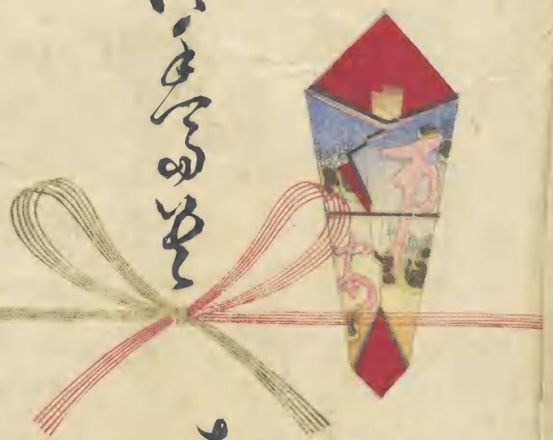
(永)

正札附

かけ直なし

東 畚町下二丁目

白福永屋



W.O. SHIROKIYA.
TAILOR & CLOTH DEALER.

男女洋服地
大小人形縫
同附属品々
東京日本橋通
壱町目八番地
白木屋和吉郎

○諸國塩辛數品

小田原名産				越後名産	備前名産
いか鹽から	かつを鹽から	たい鹽から	ほうぼう鹽から	たらの子	あみ鹽から
三州名産	越前名産	野母名産	小田原名産	對州名産	松前名産
このわた	新うに	からすみ	はとゝさゝまき	新うに	さけの子

右の品々何れも上等今般澤山着荷に付舊に倍し別段相働廉價に差上候間何卒多少に拘はらず御購求の程偏に奉祈望候

明治二十年五月十九

日本橋區元四日市
鰹節問屋 (政) 丸屋政藏

御休泊所
宇都宮傳馬町
旅店白木屋
齋藤嘉平
全 鐵道停車場前
白木屋支店

博物館 植物園
勧農局 育種場
御用 諸國種物賣捌所
東京下谷廣徳寺前通 北稲荷町壹番地
川田利八

生すつぽん並川魚發賣廣告

すつぽんハ貴重ノ品ニシテ滋養分多ク衛生上ニ有益ナルコハ皆世人ノ知ル所ナリ然レモ其産出僅少ナルハ關東ヲ最モ甚ダシトス故ニ價モ亦タ頗ル高直ナレバ之ヲ日常ノ食膳ニ供セラル丶者極メテ稀ナリ依テ玆ニ一商會ヲ設立シ西南地方ノ天然産輸入ノ便ヲ謀リ及ビ各所ノ養鼈者ト特約ヲ結ビ左ノ廉價ヲ以テ生すつぽん並川魚各種及ビ其鑵詰ヲ製造シ廣ク販賣仕候間品位御實驗之上陸續御用被仰付度伏テ奉希上候

○生すつぽん　一個ニ付 金二十五錢ヨリ

○すつぽん　正肉ソツプ　○同　鑵　詰　一合 金八錢

●日々御入用の向へハ遠近ニ拘ハらず朝夕配達仕候

○う　な　ぎ　○蒲燒鑵詰　一個ニ付 金拾五錢ヨリ

○此外どぜう　○鯉　等いろ〳〵

○右鑵詰ハ内務省衛生局の御試驗ヲ受ケ衛生上有益ナル告示書ヲ授與セラレタリ

○受賣御望ノ方ハ生鑵詰共充分割引仕候

○府内ハ御注文次第配達仕候

●鑵　詰　ハ各所ニ賣捌所有之候ニ付最寄ニテ御求ヲ乞

東京日本橋區室町三丁目十三番地

川　魚　商　會

販賣所

本郷區湯島切通町四番地
下谷區池之端仲町洋酒舗
芝區烏森町壹番地洋酒舗
日本橋區ふき屋町うなぎめし
京橋區新富町一丁目かば燒店
日本橋區通二丁目
神田區表神保町洋酒舗
麹町區富士見町靖國神社脇
日本橋區西河岸
吉原わげ屋町かば燒店

美　近江
精　良堂
攝　生軒
大　のや
竹　葉
柳　川
松　野
増　屋
龜　岩
大　常

冬物洋物類大賣出廣告

弊店儀數年來洋傘大奮發無類頗大安賣仕來候處御諸君之厚き御愛顧を蒙り日に月に盛大に立至恭く奉鳴謝候付ては是迄元店よては手狹にて不都合故一層擴張仕猶御禮の爲め左に記載の冬物類大勉強實に世間に又と無之意外之大安賣仕候間何卒洋傘同樣御引立御購求の程弊子儀で偏に奉懇願候

舶來本フランチル　大巾一尺金拾一錢ヨリ
紀州別織改良染フランチル　大巾一尺金三錢五厘ヨリ
同シヤツ大仕立　金拾五錢ヨリ
同　中仕立　金拾錢ヨリ
同本仕立モ、ヒキ　金拾五錢ヨリ
舶來帽子(約定新荷着)類　各品
和製新形帽子(舶來摸造)類　各品
羅紗二重廻シ別裁縫　金壹圓六十錢ヨリ
同　半廻シ　金八十五錢ヨリ
外ニ洋服下ズボン下メリヤス類　種々
西洋小間物類　種々

當十月廿日ヨリ大賣出シ
十日間麁景差上申候

御　日　印

舶來フランチル
紀州無類大安賣

池之端仲町通
天神町三丁目二番地

大坂屋助次郎

再拜

各國 (長)

理學器械賣捌所

諸品御物處

東京本郷區春木町二丁目

八番地

喜樂屋平藏

現金 (宗)

下谷東坂町

太道具萬打物

小增屋安次郎

東京盲唖学校

山尾庸三

東京築地三丁目十五番地
東京盲唖學校

拝啓陳ハ米國畫家チーレス氏兩三年本邦漫遊自ラ抽ケル神社佛閣等ノ油畫凡ソ四十種有之候處慈善ノ爲メ今般築地三丁目十五番地東京盲唖學校内ニ陳列シ來十一月一日ヨリ向五日間公衆ノ觀覽ニ供シ右劵料ヲ同校ニ寄附致候ニ就テハ開會前日即來ル三十一日午后二時ヨリ五時迄ノ間ニ閣下幷令夫人御來觀成シ下サレ候ハヽ一層ノ光輝ヲ増シ候筋ニ付同日御來臨被成下度此段得貴意候敬具

明治廿年十月

公爵 岩倉具定

子爵 山尾庸三

眞中忠直

中村正直

津田仙

田中芳男殿

拜啓本月十日午後第五時神田一ツ橋外第一高等中學校構内講義室ニ於テ本校卒業證書授與式執行候間乍御苦勞同時刻同處ヘ御賁臨ノ榮ヲ給ハランコトヲ希望致候敬具

但來ル八日迄ニ御諾否ノ貴答ヲ煩ス

明治二十年十月五日

英吉利法律學校

田中芳男殿

田中芳男殿

神田區錦町

英吉利法律學校

東京學士會院會員田中芳男殿

本郷區金助町七十二番地

來廿七日永田町官舎ニ於テ小集相催候間午後四時ヨリ御賁臨被下度此段御案内仕候敬具

明治二十年十二月十九日

子爵森有禮

同 寛子

東京學士會院會員田中芳男殿

元老院ニ於テ

田中芳男

明治廿一年

一府九縣聯合水産共進會

優待券

主催 宮城縣

牡鹿郡石巻

拜啓陳者五月廿日牡鹿郡石巻中瀬聯合水産共進會ニ於テ褒賞授與式執行候條當日午后一時御臨場被下度此段御案内申上候敬具

明治廿一年四月三十日

聯合水産共進會總理松平正直

田中芳男殿

追テ御差支モ候節ハ五月七日マテ其旨御通知被下度別紙優待券一葉差進候也

本郷區金助町七十二番地

東京學士會院會員田中芳男殿

來廿七日永田町官舎ニ於テ小集
相催候間午後四時ヨリ御賁臨被
下度此段御案内仕候敬具

明治二十年十二月十九日

子爵森有禮
同　寛子

東京學士會院會員田中芳男殿

田中芳男殿

神田區錦町
英吉利法律學校

拜啓本月十日午後第五時神田一ツ橋外
第一高等中學校構内講義室ニ於テ本校
卒業證書授與式執行候間乍御苦勞同時
刻同處ヘ御賁臨ノ榮ヲ給ハランコトヲ希
望致候敬具

但來ル八日迄ニ御諾否ノ貴答ヲ煩ス

明治二十年十月五日

英吉利法律學校

田中芳男殿

來者五月廿日牡鹿郡石巻中瀬聯合水産
會ニ於テ褒賞授與式執行候條當日午后
御臨場被下度此段御案内申上候敬具

一年四月三十日

聯合水産共進會總理松平正直

田中芳男殿

…テ御差支モ候節ハ五月七日マテ其旨御通知被
下度別紙優待券一葉差進候也

此優待券ハ壹人
壹枚ニ限ル入場
ノ節ハ門衛ニ渡
スベキモノトス

元老院ニ於テ
田中芳男殿

東京

元老院議官田中芳男殿

日本美術協会々頭
子爵佐野常民

宮内大臣

叡旨ヲ奉シ元老院議官田中芳男殿ヲ
来ル明治二十一年一月五日午前十時四十分
宮中ノ新年宴會ニ招請ス

明治二十年十二月二十七日

大禮服著用
大綬章佩用

本會列品館建築落成ニ付来ル十日開館式執行
致候間午後三時御来會相成度候也

明治廿一年四月六日　日本美術協會々頭
子爵佐野常民

田中芳男殿

追テ御着服ハ「フロックコート」又ハ袴羽織ノ事

元老院議官田中芳男殿

宮内大臣

叡旨ヲ奉シ元老院議官田中芳男殿ヲ
来ル十一日午前十一時宮中ノ紀元節宴會ニ
招請ス

明治二十一年二月四日

大禮服着用
大綬章佩用

元老院議官田中芳男殿

同　令夫人

皇帝　　宮内大臣

皇后両陛下ノ命ヲ奉シ元老院議官

田中芳男殿及令夫人ヲ

来ル十九日午後三時濱離宮御苑ニ

於テ催サルヽ観櫻會ニ招請ス

明治二十一年四月十三日

通常禮服又ハフロックコート着用夫人ハ西洋服着用

一　延遼館ヨリ参入スヘシ

一　同館玄關ニ於テ案内掛員ヘ示スヘシ

一　當日雨天ナレハ止ム

一　娘ハ満十五歳以上ニシテ未婚ノ者ニ限ルヘシ

田中芳男殿

當日暴風強雨ナレハ翌五月一日ニ延會ス

本月三十日早稲田私邸ニ於テ園遊會相催候間同日午後三時同所エ御貴臨被下度此段御案内申進候敬具

明治廿一年四月

伯 大隈重信
同 綾子

田中芳男殿
同令夫人

拜啓陳ハ拙宅ニ於テ本月三十一日小集相催小角力御覧ニ供度候間同日午後第一時ヨリ御入來被成下度冀望仕候敬具

廿一年五月廿八日

吉田清成

田中芳男殿

追而當日晴雨ニ不拘候

拜啓陳ハ来ル二月十三日鹿鳴館ニ於テ夜會相催候間同日午後第九時ヨリ御貴臨被下度致希望候敬具

但燕尾服

明治二十一年二月一日

東京府知事 髙﨑五六
同 鷹子

元老院議官田中芳男殿
同令夫人

追テ御来館ノ節此案内状御示シヲ乞フ

田中元老院議官殿

風邪断り

田中芳男殿

益御清榮奉賀候陳ハ來ル二十三日弊所
開業式執行候ニ付午後第一時弊所ヘ御
枉車相願機械之運轉等御一覽ニ供シ引
續キ紅葉館ニ於テ粗酒一盞呈上仕度御
光來被下候ハヾ幸榮之至リ奉存候此段
御案内如斯御座候也

明治二十一年五月八日

三田農具製作所

主任　子安峻

取締　根岸吉松

職監　松井兵次郎

田中芳男殿

三田農具製作所

拜啓過般來ヨリ本邦演藝ノ弊風ヲ矯正致
度目的ニテ日本演藝矯風會ノ創立計畫罷
在候處漸ク其緒ヲ得候ニ付本月來十七日午后
一時ヨリ鹿鳴館ニ於テ右發會式執行仕度候間
令夫人令孃御同伴御來臨被下度奉希
望候猶同日ハ別紙番組ノ通為相演候筈ニ
御坐候也

着服　フロックコート

明治二十一年六月十三日

日本演藝矯風會
攝理會長田邊太一

田中芳男殿

追テ御諾否神田區同朋町二十二番地本會假事務所ニ
御通知被下度又御來臨ノ節ハ此案内状接伴員ヘ御示シ被下度候

拜啓去月十七日鹿鳴館ニ於テ日本演藝矯風
會發會式執行可致心得ヲ以テ御來臨拜請
候得共
獨逸皇帝陛下崩御ノ報ニ接シ延會仕候處
弥本月八日ヲ以テ鹿鳴館ニ於テ執行仕候間公
日午后一時ヨリ令夫人令孃御同伴御來臨被
下度奉希望候也

着服　男子ハフロックコート以上
女子ハ洋服又ハ白襟紋附

明治二十一年七月二日

日本演藝矯風會
攝理會長田邊太一

田中芳男殿

追テ準備ノ都合モ御座候ニ付御諾否並ニ御同伴ノ有無
來ル七日マテニ神田同朋町廿二番地本會事務所ニ御通知被下度
御來臨之節ハ此案内状接伴員ヘ御示シ被下度候

發會の演藝番組

一番　松竹梅　琴 中ノ嶋松聲　尺八 荒木古童

二番　精忠義人錄　伊東燕尾

三番　浬々　都三樹　都漁中　都仙卜　都一廣

四番　橋辨慶　竹本綾瀨太夫　鶴澤豐造

五番　江戸鶯　十寸見東甌　十寸見東呂　山彥榮子　山彥康子

六番　將碁の殿樣　談洲樓燕枝　會語樓小さん

七番　嘉例の壽　富本豐前太夫　富本音羽太夫　和歌山淨賀　名見崎友次

八番　義貞稻村ヶ崎　放牛舍桃林

九番　種蒔三番叟　藤間勘右衛門　花柳壽助　淸元延壽太夫　淸元順三　淸元金八

十番　將碁の諫言　桃川如燕

十一番　新曲 水の江　文科大學敎授兼文部省書記官 從六位 物集高見作　花柳壽助振附　尾上菊五郎　常磐津都太夫　常磐津國太夫　常磐津嶋太夫　岸澤文字太夫　岸澤巳佐吉　岸澤式佐筋附

十二番　壚原の傳　三遊亭圓朝　三遊亭圓遊

十三番　新曲 插頭（かざし）の幾久（きく）　從四位勳三等男爵 高崎正風作　市川團十郎振附　松島庄五郎　芳村伊四郎　杵屋正治郎筋附　杵屋彥治郎　杵屋小三郎

右來る十七日午后一時より鹿鳴館に於て相催候也

日本演藝矯風會

田中芳男殿

本郷金助町

田中芳男殿

来ル八日鹿鳴館ニ於テ日本
演藝矯風會發會式挙
行候ニ付過日御手元へ差上置候案内
状御持参ニ而御光来被下度
猶承り候ニ右之案内状未タ
御落手ニ相成不申方モ有之
候趣ニ付改テ案内状差出
候間御落手可被下候

廿一年七月五日

日本演藝矯風會
攝理會長田邊太一

田中芳男殿

拜啓陳ハ昨年五月本會開設ノ際其擧ヲ御賛成被下金員御寄贈ニ因リ該會ノ收益金ト倶ニ東京府養育院ニ交附セルヲ以該院ノ原資一時ニ増殖シ救恤ノ途漸次擴張スルニ到リ本會ノ幸慶不過之深ク鳴謝スル所ニ候尚將來維持方法等相立度依テ本年モ近日該會開設スヘキ見込ニ付何分御賛助多少御寄附被下候樣希望仕候右拜願迄如此御坐候敬具

明治二十一年三月

東京養育院
慈善會長高崎鷹子

田中芳男殿
令夫人

東京府養育院慈善會事務所

衛生參考室ハ内外衛生上ニ關スル物品ヲ蒐集シ衛生上參考ノ資ニ供スル目的ニ有之其陳列モ略ホ整頓シ就中曽テ東京衛生試驗所ニ於テ着手罷在候本邦普通食品ノ分析試驗モ追々完了シ日常食料ノ分量及ヒ其成分等實物ヲ以テ其標準ヲ示スニ至リ候ニ付一應閲覧ニ供シ度候間御繰合ヲ以テ来ル六日午後一時ヨリ神田區和泉町一番地東京衛生試驗所内衛生參考室ヘ御来臨相成候様致度當日ハ各陳列品ノ解説並ニ食物及飲料水等一二ノ試驗ヲモ爲致可申候此段及御案内候也（雨天延引）

明治廿年十二月三日

内務省衛生局長　長與專齋

元老院議官田中芳男殿

御家眷御同伴ヲ請フ

美術展覧會

入場券

日本美術協會

本郷金助町七拾弐番地

元老院議官田中芳男殿

今般本會列品館ニ於テ美術展覧會開設候ニ付テハ豫テ御來觀ヲ希望致居候得共開會中ハ來觀人雜沓十分御熟覽難相成因テ閉會後更ニ新古精品ヲ併列シ寛々高覽ニ供度候間來ル六月三日午前午後ノ内何卒上野公園内本會ヘ御來場被下度希望仕候

拜具

明治二十一年五月卅日

日本美術協會會頭

子爵佐野常民

元老院議官田中芳男殿

令夫人

院議官田中芳男殿

謹啓陳者二月一日延遼館ニ於テ二品
彰仁親王幷ニ御息所兩殿下夜會御催ニ付
同日午後九時御參會被下候樣可申進旨殿
下ノ命ニ依リ此段御案內仕候敬具

明治二十一年一月廿三日　小松宮別當三宮義胤

元老院議官田中芳男殿
同　令夫人

追テ當日御入來ノ節ハ本紙御持參被下度且御參會無之節ハ其旨御回示ヲ乞フ
着服文官ハ通常禮服(燕尾)陸軍将校ハ禮裝海軍将校ハ禮服勲章御佩用之事

大日本水産會
明治廿一年六月一日ヨリ同七日迄七日間
第二回水産品評會
優待劵
京橋區木挽町二丁目厚生館內ニ於テ開設

大日本水産會
明治廿一年六月一日ヨリ同七日迄七日間
第二回水産品評會
優待劵
京橋區木挽町二丁目厚生館內ニ於テ開設

大日本水産會
明治廿一年六月一日ヨリ同七日迄七日間
第二回水産品評會
優待劵
京橋區木挽町二丁目厚生館內ニ於テ開設

來二十六日芝公園內彌生社ニ於テ小集相
催角觝可供貴覽候間午十二時三十分ヨリ
御來駕被下度希望致候敬具

明治二十一年五月二十一日

伯爵黑田淸隆

田中芳男殿

但晴雨ニ不拘候事

拜啓陳者來六月一日ヨリ同七日迄本會
會堂京橋區木挽町二丁目厚生館ニ於テ第
二回水産品評會相開候間御來觀被下度優
待劵相添此段御案內申上候也

明治二十一年五月三十一日

大日本水産會幹事長　柳楢悦

名譽會員コンマンドール、レナトー、ド、マルチノー閣下ノ
演說
5.—Address by His Excellency the Italian Minister Monsieur Le Commandeur Renato de Martino, Honorary Member of the Society.

名譽會員子爵森有禮閣下ノ演說
6.—Address by His Excellency Viscount Mori Arinori (Minister of state for Education), Honorary Member of the Society.

總裁一品大勳位熾仁親王殿下ノ令詞
7.—Congratulatory Address by His Imperial Highness Prince Arisugawa (Commander-in-Chief of the Army), Honorary President of the Society.

會長辻新次閣下ノ答詞
8.—Speech in Reply to the above Addresses by His Excellency Tsuji Shinji (Vice-Minister of state for Education), President of the Society.

奏樂
9.—Music by the Imperial Army Band.

右終リテ招待賓ヘ茶菓ヲ呈ス
(At the conclusion of the proceedings, tea and cakes will be handed round.)

十三日午前九時ヨリ
The proceedings on the 13th May will commence at 9 A. M., and be as follows:

會員井上陳政君ノ演說
支那現今教育概說
1.—Address on "The Present State of Education in China" by Mr. Inouye Nobumasa, Member of the Society.

議員三宅米吉君ノ演說
歷史教授法ニツキテノ卑見
2.—Address on "The Teaching of History" by Mr. Miyake Yonekichi, Councillor of the Society.

議員上原六四郎君ノ演說
職業教育
3.—Address on "Technical Education" by Mr. Uyehara Rokushiro, Councellor of the Society.

小學校ニ於テ男女共學ノ可否ノ討議
4.—Discussion on the Advisability of giving Instruction to Pupils of Both Sexes in the same School-rooms in Elementary Schools.

德育方法按ノ討議　發議者名譽會員加藤弘之閣下
5.—Discussion on the Method of Moral Education,—the Discussion to be commenced by His Excellency Kato Hiroyuki (Senator), Honorary Member of the Society.

十四日午後三時ヨリ
The proceedings on the 14th May will commence at 3 P. M., and be as follows:

部門長ノ撰舉
1.—General meeting for the Election of the Sectional Presidents of the Society.

各部門前途ノ相談等
2.—Consultation as to the Future Working of the Sections.

大日本教育會長辻新次ハ明
Mr. Tsuji Shinji, President of the Educational Society
治二十一年五月十二日午後一時
of Japan, requests the honour of ________________'s
虎ノ門內工科大學中堂ニ於テ舉
company at the Fifth General Meeting of the Educational
行スヘキ本會第五回總集會ヘ田
Society, which will be held on the 12th May, at 1
中芳男閣下ノ御來臨ヲ希
P. M., in the Central Hall of the Engineering College,
望ス敬具
Toranomon-uchi.

PROGRAMME.

1. String Orchestral Music.
   Die Entführung aus dem Serail. *Mozart.*
2. Congratulatory Addresses.
3. The Festival Chorus.
   Kigensetsu no Uta.
4. The National Hymn.
   Kimi ga Yo.
5. String Orchestral Music.
   Selection of Traviata. *Verdi.*
6. Chorus. *Mendelssohn.*
   Happy and Blest are they.
7. String Orchestral Music.
   Bitte Schön Polka *Strauss.*
   Meiji March *G. Saurlet.*

東京學士會院會員田中芳男殿

来十一日紀元節ニ付虎ノ門内工科大學講堂ニ於テ紀元節ノ歌外數曲奏樂爲致候間仝日午后三時御臨會被下度此段及御案内候也

明治二十一年二月九日　文部大臣子爵森有禮

東京学士會院會員田中芳男殿

御臨會ノ節ハ此案内狀御示ヲ乞フ

紀元節祝賀會順序

一 奏樂

一 祝詞

一 紀元節の歌　歐洲管絃樂合奏

一 君が代　仝上

一 奏樂

以上

明治二十一年五月十一日

PROGRAMME

OF THE

第二金曜日同十二日第二土曜日同十三日第二日曜日同十四日第二月曜日ノ四日

FIFTH GENERAL MEETING

OF THE

虎ノ門内工科大學中堂ニ於テ

EDUCATIONAL SOCIETY OF JAPAN,

TO BE HELD ON

擧行スベキ大日本教育會

FRIDAY, SATURDAY, SUNDAY, AND MONDAY,

The 11th, 12th, 13th, and 14th May, 1888.

第五回

IN THE

總集會次第

CENTRAL HALL OF THE ENGINEERING COLLEGE,

TORANOMON-UCHI.

十一日午後一時ヨリ

The proceedings on the 11th May will commence at 1 P. M., and be as follows:

明治二十年中會務ノ報告

1.—Report of the Affairs of the Society, from 1887 to 1888.

規則改正ノ總會議

2.—Discussion of some Proposed Alterations in the Regulations of the society.

十二日午後一時ヨリ

The proceedings on the 12th May will commence at 1 P. M., and be as follows:

參事員伊澤修二君ノ演説

教科書ニ付キテノ意見

1.—Address on "Text Books" by Mr. Isawa Shūji, Privy Councillor of the Society.

會員ドクトル、ミハエリス君ノ演説

高等學校教育ノ身體發達ニ及ボス影響

2.—Address on "The Influence of the Higher Education upon the Development of the Body" by Dr. Michaelis, Member of the Society.

名譽會員九鬼隆一閣下ノ演説

3.—Address by His Excellency Kuki Rūichi, (Director of the Bureau of the Imperial Archives), Honorary Member of the Society.

名譽會員黎庶昌閣下ノ演説

4.—Address by His Excellency the Chinese Minister Li shu Chang, Honorary Member of the Society.

拝啓仕候益御清適被成御座奉恭賀候陳者來ル十四日午後一時ヨリ工科大學中堂ニ於テ羅馬字會第三回總會相開キ候間御家族御同伴御臨場奉願度此段御案内申上候敬具

明治廿一年四月十日

羅馬字會幹事
神田乃武
矢田部良吉

田中芳男殿

右圖書寮記錄中編三冊今般當寮ニ於テ印刷候條一部進呈候也

明治二十年十二月

圖書頭井上毅

演說者姓名

大隈重信君

伊國公使　マルチノ君

三好退藏君

イビイ君

謹テ書ヲ左右ニ呈シ奉リ候秋菊擲金ノ節益々御清福大慶ニ存シ奉リ候陳ハ私共同志者相謀リ維新史料ト申ス一雑誌ヲ發刊致シ之ニ由リ材料蒐集ノ上終ニ一部ノ維新史ヲ編輯致ス目的ニ御座候先ツ其大意ヲ申上レハ王政御維新ハ本邦歴史ノ一大段落ニシテ維新史ヲ修ムルハ今日ノ急務ト存シラレ候既ニ維新ノ初ヲ距ルコト未タ久シカラス候ニ付當時王事ニ勤勞アラセラル、方々臺閣江湖ニ巍然トシテ存在セラレ此際幸ニ各位ノ御許ヲ蒙リ高教ヲ伺ヒ奉リ之ヲ筆記登錄致候得ハ後人カ斷簡零牘ニ由リ一家ノ筆記ニ出ツルノ史ヲ作ルノ類ニハ之レナク眞正ノ事實ヲ後世ニ傳フルコトヲ得ヘキ儀ト相信候抑々嘉永以降明治五年ニ至ル二十五年間ハ志士豪傑家ヲ棄テ身ヲ忘レ專ラ王事ニ勤メ或ハ慷慨悲歌孤憤流離肝腦地ニ塗レ熱血野ヲ染メ遂ニ王政維新ノ鴻業ヲ翊賛スルノ事蹟ハ枚擧スヘカラス此ヲ表章致スハ志士仁人ニ在リテハ固ヨリ望マル、所ト存シ奉リ候故ニ維新ニ勳勞アル諸公及亡勳臣ヲ敬慕スルノ志士仁人ハ必私共ノ擧ヲ賛ケ志ヲ成スヘキノ高教ヲ垂レラル、ハ私共ノ信シテ疑ハサル所ニ御坐候伏テ希クハ史料御一讀ノ上御賛成ヲ賜ハリ且當時ノ事蹟ヲ御示シ下サレ候樣懇願奉リ候以上

野史臺

明治二十年　月　　富岡政信

各位閣下

御取次御中

尚々凡例及史料發刊ノ分ヲ左ニ錄シ候

維新史料蒐集凡例

一王政維新前國家多事ニシテ志士豪傑奔走勤勞スルモノ勝テ數フヘカラス而テ當時謀ル所率ヲ機密ニ屬シ其事ニ當レル人ニアラスンハ之ヲ知ルニ由ナシ然リト雖モ之ニ依テ遂ニ維新ノ大業ヲ成セシナリ其事其人決テ埋沒スヘカラス故ニ維新史料ヲ編シ普ク之ヲ登載シテ公ケノ品評ヲ請ヒ其議論ノ歸着スル所ヲ待チ一部ノ維新史ヲ修メ史ト料ト並ヒ傳ヘントス

一本編ハ嘉永以後明治五年ニ至ル二十五年間ニ生シ苟モ國事ニ關スル者ハ事大小トナク網羅蒐集シテ遺漏ナカランコトヲ欲ス且又一時ノ戯謔ニ出ツル者ト雖モ當時ノ狀ヲ見ルニ足ルヘキモノハ之ヲ收メ詩歌文章ノ如キハ作者ノ人物品藻ヲ察スルノ益アルヲ以テ之ヲ收ム

一碑文ハ一世ノ業事ヲ知ルニ足リ記文序文ノ類ハ何人ノ撰スル所ヲ問ハス當時ノ事ヲ叙シ或ハ後人ノ追懷ニ係ルモノト雖モ之ヲ收メ後人ノ詩歌文章等ニテ史論又ハ贊語ヲ以テ見ルヘキモノハ之ヲ收ム

一本編ハ年月ノ前後事實ノ大小ニ拘ハラス得ルニ隨テ之ヲ載ス故ニ四方ノ君子聞見ノ及フ所ヲ記シテ以テ寄稿アランコヲ請フ其稿ヲ編中ニ掲ケ姓名ヲ顯ハシテ妨ケナキハ之ヲ擧ケ若シ無名トスヘキ命アラハ事ヲ記シテ姓名ヲ除クヘシ但原稿ニハ必ス住所姓名ヲ書サルヘシ

一本編載スル所事實ニ錯誤アリト認ムル𪜈ハ速ニ辨白ヲ與ヘラレンコヲ請フ其文意ヲ後集ニ掲ケテ世ニ問フヘシ事實ノ歸着ヲ得ル迄ハ幾回ト雖モ登録ノ勞ヲ辭セズ是レ史料ニ於テ實ニ缺クヘカラサルノ要義ナリ

一本編ニ對シ記事又ハ辨白ヲ要スヘキ項目アル𪜈ハ一報ヲ賜ハラハ東京府内ハ速ニ筆記者ヲシテ參候セシムヘシ

維新史料

毎月一回發行○定價壹部六錢十部前金九十四錢
府外ハ郵税壹錢ヲ要ス○特別配布ノ外ハ必ズ前金タルヘシ

第一編目次（九月十九日既刊）○維新史料印行大意○孝明天皇御製○水戸烈公長歌○七卿西走顛末○松原神社碑○大村三位碑○三條河原梟首（圖入）○獸皮獻納○佐久間象山詩○小松帶刀詩○加藤吉太夫詩弁歌○長岡是容歌

第二編目次（十月二十日既刊）○維新史撮要○吉田松陰回顧錄○島津家出幕府書○平野二郎贈同志書○眞木保臣略傳○岩倉村瘞髮碑○魯英米條約○小山春山獄中の話○三條河原梟首の續○有馬新七詩○兒島强介詩○梅田源次郎歌○藤田彪歌

東京下谷區御徒士町
三丁目四十番地

發行所　野史臺

賣捌所

東京南傳馬町一丁目　吉川半七
同　神田淡路町　巖々堂
同　雉子町　團々社
同　日本橋新葭町　良明堂
同　神田佐柄木町　東海堂
同　京橋尾張町　改進堂

本郷區金助町七十二番地
田中芳男様
謹乞御親展

下谷御徒士町三丁目四十番地
野史臺
富岡政信

大日本農會報告第七拾號附錄　明治二十年五月十五日

大日本農會規則　明治二十年四月改正

第一章　名稱

第一節　本會は大日本農會と稱す

第二章　位置

第一節　本會事務所は東京京橋區木挽町貳丁目拾四番地に設く

第三章　目的

第一節　本會は汎く農事の經驗知識を交換して專該業の改良進歩を圖るへし

第二節　本會に於ては會員其他の通信論說及ひ本會の紀事を輯めて報告書を編み之を各員に頒分すへし

第二節　常置議員は會頭より下付する議案を議定すへし

但常置議員不在の者あるときは補欠員之に代るものとす

第八章　委員

第一節　本會に農藝委員を置く

但其數を定めす

第二節　農藝委員は會頭之を撰定す

但任期を定めす

第三節　農藝委員は幹事長の照會に應し質問の事項を調査するものとす

第四節　農藝委員は調査の繁閑に由り相當の報酬を付與す

第五節　本會に臨時巡回委員を置く

但其數を定めす

第六節　臨時巡回委員は會頭之を撰定す

第七節　臨時巡回委員は本會の目的を擴張するため地方を巡回するものとす

第八節　臨時巡回委員は巡回の里程日數により相當の旅費日當を付與す

但其規則は別に定むる所による

第九節　本會に特別通信委員を置く

但其數を定めす

第十節　特別通信委員は會頭之を撰定す

但任期は滿二年とす

第十一節　特別通信委員は通信事務を取扱ふものとす

第十二節　特別通信委員は其繁閑に由り相當の報酬を付與するとあるへし

第九章　集會

拜啓　陳者來ル十日(第二土曜日)午後一時ヨリ京橋區木挽町二丁目本會々堂厚生館ニ於テ第六十回月次小集會相開キ水產上演說等相催シ候間御繰合セ御來會被下度此段及御案内候也

但シ本月ハ小集會繰上ケ候ニ付別段及御案内ニ候得共來一月ヨリ是迄ノ通リ報告書附錄ヲ以テ及御案内ニ候此段申添候也

明治二十年十二月七日

大日本水產會

當日演說者諸君左ノ如シ

遠洋漁夫ニ救護船ヲ派遣スルノ議　岩間倪次郎君

會員諸君ニ謀ル　上田英吉君

山陽北陸兩道水產實況（前回ノ續）　河原田盛美君

演題未定　山本由方君

演題未定　關澤明清君

田中芳男殿
本郷区金助町[illegible]番地

來十四日(第二土曜日)午後正一時本會々堂厚生館に於て第六十五回小集會相開き左記の演述並に宿題其他農事に係る談話を相催し且頃日受入の農產數種を參觀に供し候に付可成御繰合を以て御來會被下度右御按内申上候以上

演述

富山、石川、長野三縣下蠶業の近況　特別會員　練木喜三君

演題未定　特別會員　高橋信貞君

農業の經濟續　特別會員　村上要信君

宿題

蠶業の進歩を圖るの便方

明治二十一年一月十一日

京橋區木挽町貳丁目拾四番地

大日本農會

追て來二月第六十六回小集會の宿題ハ「馬肉食用諸件、農家をして農業經濟の注意を周密ならしむるの方法」に有之候間此段豫御承知の上當日席上にて通常談話の他に別段御演述の件も候は丶御演題本月中に御通知被下度候

來十日(第二土曜日)午後正一時本會々堂厚生館に於て第六十四回小集會相開き左記の演述並に宿題其他農事に係る談話を相催し且頃日受入の農產數種を參觀に供し候に付可成御繰合を以て御來會被下度右御案內申上候以上

演述

輸出品と救荒品との關係に付聊意見を述ふ　特別會員　稻波惇太郎君

農業の經濟　同　村上要信君

肥料の說　同　船津傳次平君

果蔬試驗の結果　同　田中芳男君

宿題

畜產の販路を便利ならしむるの方法

果蔬の需用を增加せしむるの方法

明治二十年十一月七日

京橋區木挽町貳丁目拾四番地

大日本農會

追て來明治二十一年一月十四日(第二土曜日)第六十五回小集會の宿題ハ「蠶業の進歩を圖るの便方」に有之候間此段豫御承知の上當日席上にて通常談話の他に別段御演述の件も候は丶其演題本月中に御通知被下度候

十四　莖ノ効　莖茶ヲ製シタル殘リノ葉ル如キ葉莖或ハ根附ノ莖等大釜ニテ能ク煮出シ其湯風呂ニ入七八日間沸シ返シテ入浴スル片ハ身躰中ニ汗モノ如ク「カユシ」「ブツ〳〵」ト出來タル或ハ疝氣ナ白ニ大効アルナリ

右之通リ亦食トナシテ他ニ比類無キ有効食物ナルニヨリ諸彦篤ト試驗ノ勞ヲ取ラレンヿヲ懇願ノ至ニ不堪矣

千葉新報明治十九年六月八日第八百四十二號ノ寫シ

鳩麥ノ成分

鳩麥ハ滋養ノ効アリ薬力ノ大ナルヿハ嘗テ和漢古農書及本草書等ニ論スルモ未タ學理上其滋養ノ効驗如何ヲ究メタルモノナク養生家ヲシテ徒ニ隔靴ノ嘆アラシメシカ余頃日駒場農學校助敎農學士農藝化學士澤野淳氏ヨリ氏ノ分拆セル鳩麥ノ結果ヲ得タレハ左ニ之レヲ掲ケテ其滋養分ノ多少ヲ示サン

鳩麥ノ成分

農學士小西文之進誌

大日本水産會

明治二十年十二月七日

當日演說者諸君左ノ如シ

遠洋漁夫ニ救護船ヲ派遣スルノ議　岩間侃次郎君

會員諸君ニ謀ル　上田英吉君

山陽北陸兩道水產實况（前回ノ續）　河原田盛美君

演題未定　山本由方君

演題未定　關澤明清君

田中芳男殿
本郷区金助町廿五番地

追て來二月第六十六回小集會の宿題ハ「馬肉食用諸件、農家をして農業經濟の注意を周密ならしむるの方法」に有之候間此段豫御承知の上當日席上にて通常談話の他に別段御演述の件も候は丶御演題本月中に御通知被下度候

來十日（第二土曜日）午後正一時本會々堂厚生館に於て第六十四回小集會相開左記の演述並ニ宿題其他農事に係る談話を相催し且項日受入の農產數種を參觀に供し候に付可成御繰合を以て御來會被下度右御案内申上候以上

演述

輸出品と救荒品との關係に付聊意見を述ふ　特別會員　稻波惇太郎君

農業の經濟　同　村上要信君

肥料の說　同　船津傳次平君

果蔬試驗の結果　同　田中芳男君

宿題

畜產の販路を便利ならしむるの方法

果蔬の需用を增加せしむるの方法

明治二十年十一月七日　京橋區木挽町貳丁目拾四番地

大日本農會

追て來明治二十一年一月十四日（第二土曜日）第六十五回小集會の宿題ハ「蠶業の進歩を圖るの便方」に有之候間此段豫御承知の上當日席上にて通常談話の他に別段御演述の件も候は丶其演題本月中に御通知被下度候

大日本農會規則　明治二十年四月改正

第一章　名稱

第一節　本會は大日本農會と稱す

第二章　位置

第一節　本會事務所は東京京橋區木挽町貳丁目拾四番地に設く

第三章　目的

第一節　本會は汎く農事の經驗知識を交換して專該業の改良進步を圖るへし

第二節　本會に於ては會員其他の通信論說及ひ本會の紀事を輯めて報告書を編み之を各員に頒分すへし

但報告書は毎月一回刊行するものとす

第四章　會員

第一節　本會の會員は左の三種に區別す

名譽會員
特別會員
通常會員

第二節　名譽會員は内外國人を問はす學術若くは名望ありて會頭の特撰に由るものとす

但本會の議事に關せさるへし

第三節　特別會員は内國人にして毎年金三圓を出し本會の議事ニ關するものとす

但入會の時金三拾圓を出すものは自後出金を要せす且本會の許可を得て其會員の權利を餘人に繼續せしむるを得

第四節　通常會員は内國人にして毎年金壹圓貳拾錢を出し本會の議事に關せさるものとす

但入會の時金拾五圓を出すものは自後出金を要せす且本會の許可を得て其會員の權利を餘人に繼續せしむるを得

第五節　總て會員たる者には本會の證票を付與すへし

第六節　總て會員たる者は無見料にて本會に屬する書籍室及ひ物品陳列場に出入縱覽するを得へし

但會員に非さる朋友三名以内を誘引するを得

第七節　會員中己を得さる事故あるときは退會するを得へし

但會費金は返付せさるものとす

第八節　總て會員たる者本會の妨害となるへき所爲あるか又は本分の義務を欠くときは除名すへし

但會費金は返付せさるものとす

第五章　會頭

第一節　二品大勳位能久親王を請ひて會頭に奉戴す

第二節　會頭は本會一切の事務を總理す

第三節　會頭は特別會員拾名以上の請求に依り常置議員の議決を經て臨時大集會及ひ議會を開くとあるへし

第六章　役員

第一節　本會の役員を定むると左の如し

幹事長　一名
幹事　六名
錄事　無定員
主計　同
庶務　同

第二節　幹事長は會頭の命に依り本會一切の事務を幹理し會頭不在のときは其代理たるへし

第三節　幹事長は幹事以下の役員を監督し金圓の領收證及ひ會計簿に捺印し臨時諸雇を進退をへし

第四節　幹事は會頭の命を受けて本會の事務を分擔し幹事長の指揮に從て之を整理すへし

第五節　幹事長不在のときは幹事其代理たるへし

第六節　錄事は主任幹事の指揮を受け會議及ひ諸集會の記事を掌り會員姓名簿、書籍及ひ陳列品目錄を整頓し報告編纂に從事すへし

第七節　主計は主任幹事の指揮を受け金圓の受拂及ひ諸物の購求を掌り會計諸帳簿及ひ證書類を調成保存し決算年表を編製すへし

第八節　庶務は主任幹事の指揮を受け文書の往復、來人の應接、書籍室及ひ物品陳列場の看護を掌り其他の雜務に從事すへし

第九節　幹事長及ひ幹事は在京特別會員を以て公撰し錄事以下は會頭之を命するものとす

但幹事長幹事の任期は滿二年とし幹事は毎年其半數を改撰するものとす

第十節　錄事以下は事務の繁閑に由り相當の報酬を付與す

第七章　議員

第一節　在京特別會員中より貳拾五名を公撰して常置議員とす

但任期は滿二年とし別に次點の者拾名を以て補欠員とす

鳩麥ノ成分

農學士小西文之進誌

第二節　常置議員は會頭より下付する議案を議定すへし
但常置議員不在の者あるときは補欠員之に代るものとす

第八章　委員

第一節　本會に農藝委員を置く
但其數を定めす

第二節　農藝委員は會頭之を撰定す
但任期を定めす

第三節　農藝委員は幹事長の照會に應し質問の事項を調査するものとす

第四節　農藝委員は調査の繁閒に由り相當の報酬を付與す

第五節　本會に臨時巡回委員を置く
但其數を定めす

第六節　臨時巡回委員は會頭之を撰定す

第七節　臨時巡回委員は本會の目的を擴張するため地方を巡回するものとす

第八節　臨時巡回委員は巡回の里程日數により相當の旅費日當を付與す
但其規則は別に定むる所による

第九節　本會に特別通信委員を置く
但其數を定めせ

第十節　特別通信委員は會頭之を撰定す
但任期は滿二年とす

第十一節　特別通信委員は通信事務を取扱ふものとす

第十二節　特別通信委員は其繁閒に由り相當の報酬を付與することあるへし

第九章　集會

第一節　大集會は全國の會員を會し每歳春期一回開設するものとす
但期日は三ヶ月前に報道すへし

第二節　大集會に於て各地農事の實況を談話し將來の意見を諮詢し及ひ本會事務の要件を報道するものとす

第三節　小集會は在京の會員を會し每月第二土曜日午後第一時より開設するものとす
但時宜に由り期日及ひ時限を變更することあるへし

第四節　小集會は宿題に對する事件を陳述し併せて農事の談話をなすものとす

第十章　議會

第一節　定期會議は特別會員を以て組成し每歳大集會の後に於て開くものとし議案は三ヶ月前に報道すへし
但時宜に由り臨時議案を發することあるへし

第二節　定期會議の議長及ひ副議長は每會投票を以て之を定め會則の更正、事業の新設、役員の撰擧等全會に關する重大の件を議定するものとす
但其規則は別に定むる所による

第十一章　雜件

第一節　會員中拾人以上の連名を以て建議するときは會頭は之を常置議員に付して其可否を議定せしむへし
但拾人以下と雖會頭可と認むるときは議題となすを得へし

第二節　各地方の會員成規の人員に至るときは支會を設立することを得
但其規則は別に定むる所による

第三節　會員の質問は幹事長より農藝委員の説明を求め或は錄事をして調査せしめ又は廣く會員の説を求めて之に應答すへし
但其事項に由り相當の質問料を徵收することあるへし

第四節　會員外と雖有益の件を報告するものあるときは之を報告書に掲け報酬として其報告書壹部を付與すへし

第五節　農事の發明改良に功勞のものあるときは會頭より賞牌或は賞狀を付與することあるへし

第六節　會員中自己の發明改良せし物品を以て陳列場に出し或は農藝委員の審査を乞ふときは其請求に應すへし

第七節　前節の場合により審査を經て特に有効と認むるときは賞牌或は賞狀を付與することあるへし

第八節　總て會員の文書は幹事長の宛名を以て事務所へ郵送すへし

第九節　總て會費金は該前年十二月中に出すへし
但期限を過きて納出金せさる者は郵便税先拂を以て之を督促し且報告書を頒分せさることあるへし
尤出金せしときは其翌月分より報告書を頒分すへし

第十節　總て金圓物品等を本會へ寄附するものあるときは會頭若くは幹事長の名を以て謝狀を付與し寄附者の姓名を帳簿に錄して永く之を保存し且新聞紙に廣告すへし

…々堂厚生館に於て第六十五回小集會相開
…談話を相催し且頃日受入の農產數種を參觀
…旨被下度右御按内申上候以上

特別會員　練木喜三君
　　　　　高橋信貞君
特別會員　村上要信君

…木挽町貳
…拾四番地　大日本農會

…れ「馬肉食用諸件、農家をして農業經濟の
…之候間此段豫御承知の上當日席上にて通
…、御演題本月中に御通知被下度候

…堂厚生館に於て第六十四回小集會相開左
…を相催し且頃日受入の農產數種を參觀に
…下度右御案内申上候以上
…を述ふ

特別會員　稻波惇太郞君
同　村上要信君
同　船津傳次平君
同　田中芳男君

…挽町貳
…番地　大日本農會

…土曜日）第六十五回小集會の宿題れ「蠶…
…此段豫御承知の上當日席上にて通常談話
…本月中に御通知被下度候

第一節　大集會は全國の會員を會し毎歳春期一回開設するものとす
但期日は三ヶ月前に報道すへし
第二節　大集會に於て各地農事の實況を談話し將來の意見を諮詢し及ひ本會事務の要件を報道するものとす
第三節　小集會は在京の會員を會し毎月第二土曜日午後第一時より開設するものとす
但時宜に由り期日及ひ時限を變更することあるへし
第四節　小集會は宿題に對する事件を陳述し併せて農事の談話をなすものとす
第十章　議會
第一節　定期會議は特別會員を以て組成し毎歳大集會の後に於て開くものとし議案は三ヶ月前に報道すへし
但時宜に由り臨時議案を發することあるへし
第二節　定期會議の議長及ひ副議長は毎會投票を以て之を定め會則の更正、事業の新設、役員の撰擧等全會に關する重大の件を議定するものとす
但其規則は別に定むる所による
第十一章　雜件
第一節　會員中拾人以上の連名を以て建議するときは會頭は之を常置議員に付して其可否を議定せしむへし
但拾人以下と雖會頭可と認むるときは議題となすを得へし
第二節　各地方の會員成規の人員に至るときは支會を設立することを得
但其規則は別に定むる所による
第三節　會員の質問は幹事長より農藝委員の説明を求め或は錄事をして調査せしめ又は廣く會員の説を求めて之に應答すへし
但其事項に由り相當の質問料を徵收することあるへし
第四節　會員外と雖有益の件を報告するものあるときは之を報告書に掲け報酬として其報告書壹部を付與すへし
第五節　農事の發明改良に功勞のものあるときは會頭より賞牌或は賞状を付與することあるへし
第六節　會員中自己の發明改良せし物品を以て陳列場に出し或は農藝委員の審査を乞ふときは其請求に應すへし
第七節　前節の場合により審査を經て特に有效と認むるときは賞牌或は賞状を付與することあるへし
第八節　總て會員の文書は幹事長の宛名を以て事務所へ郵送すへし
第九節　總て會費金は該前年十二月中に出すへし
但期限を過きて猶出金せさる者は郵便税先拂を以て之を督促し且報告書を頒分せさることあるへし
尤出金せしときは其翌月分より報告書を頒分すへし
第十節　總て金圓物品等を本會へ寄附するものあるときは會頭若くは幹事長の名を以て謝状を付與し寄附者の姓名を帳簿に錄して永く之を保存し且新聞紙に廣告すへし

々堂厚生館に於て第六十五回小集會相開話を相催し且頃日受入の農產數種を參觀被下度右御按内申上候以上

特別會員　練木喜三君
高橋信貞君
特別會員　村上要信君

木挽町貳
四番地　大日本農會

い「馬肉食用諸件、農家をして農業經濟の
之候間此段豫御承知の上當日席上にて通
、御演題本月中に御通知被下度候

堂厚生館に於て第六十四回小集會相開左
を相催し且頃日受入の農產數種を參觀に
下度右御案内申上候以上

を述ふ　特別會員　稻波惇太郎君
同　村上要信君
同　船津傳次平君
同　田中芳男君

挽町貳
番地　大日本農會

土曜日）第六十五回小集會の宿題い「蠶
此段豫御承知の上當日席上にて通常談話
本月中に御通知被下度候

十四　莖ノ効　莖茶ヲ製シタル殘リノ葉ル如キ葉莖或ハ根附ノ莖等大釜ニテ能ク煮出シ其湯風呂ニ入レ七八日間沸シ返シテ入浴スル片ハ身躰中ニ汗モノ如ク「カユシ」プツ〳〵ト出來タル或ハ疝氣ナドニ大効アルナリ
右之通リ必食トナシテ他ニ比類無キ有効食物ナルニヨリ諸彥篤ト試驗ノ勞ヲ取ラレシ「ヲ懇願ノ至ニ不堪候
千葉新報明治十九年六月八日第八百四十二號ノ寫シ
鳩麥ノ成分
鳩麥ハ滋養ノ効アリ藥力ノ大ナル「ハ嘗テ和漢古農書及本草書等ニ論スルモ未ダ學理上其滋養ノ効驗如何ヲ究メタルモノナク養生家ヲシテ徒ニ隔靴ノ嘆アラシメシカ余頃日駒場農學校助教農學士農藝化學士澤野淳氏ヨリ氏ノ分拆セル鳩麥ノ結果ヲ得タレバ左ニ之レヲ掲ケテ其滋養分ノ多少ヲ示サン
農學士小西文之進誌

鳩麥ノ成分

	新鮮ナル若鳩麥（外皮ヲ除去ス）百分中	乾燥物百分中
水	十二、〇九	
蛋白	十七、五七	一九、九八
脂肪	五、八〇	六、六〇
可溶水酸化炭素	六二、三八	七〇、九六
内　澱粉	五四、五四	六二、〇五
デキストリン	一、七三	一、九六
糖質物（グリコス等）	三、九八	四、五二
未詳物	二、一三	二、四三
纖維	〇、八六	〇、九八
灰	一、三〇	一、四八
計	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
全窒素	二、八二	三、一九七
アマイドノ窒素	〇、〇四九	〇、〇五七

穀名／成分	水	蛋白質	脂油	可溶水酸化炭素	纖維	灰
米	一四、〇	八、八	一、一	七二、八	一、一	一、一
小麥	一四、四	一二、〇	一、五	六六、四	三、〇	一、七
大麥	一四、三	一〇、〇	二、五	六三、九	七、一	二、二
玉蜀黍	一四、四	一〇、〇	六、五	六二、一	五、五	一、五
蕎麥	一四、〇	九、〇	一、五	五八、四	一五、〇	一、八

左ノ數量ハ百分中所含ノ成分ナリ

高位諸彥ニ奉伺升
從來有來ノ宅地周邊ノ風除或火除ノ立木甚タ薄益ニシテ何分宅地ニ懸ル諸費ノ生ル丶「ガ出來マセン第一地面ハ小生等ノ述ル迄テモナク諸公御承知ノ如ク萬寶一ツモ其原素勉ヨリ生ゼザルハナシ然ルトキハ地面寶物ノ司ナレバ一寸タリトモ無用ニ明ケ置ヘキ者ニ非ラズ又明ケ置カザル樣共ニ心懸ケ國家富强ヲ祈ルキ者ヲ御座リ升就マシテハ何ソ厚益木ハ御座リ升マイカ若シ御座リ升シタナラ御教導ヲ願上升小生考マスニハ當地方ノ如キハ先栢木ニ限ルカト存升栢木ニハ五ツ丶徳カ有マス一ハ白栢ニテ食油ヲ得二ハ陰栢ニテ燈油ヲ得三ハ栢木何程ノ大風ト雖モ决シテ拔葉ナリトモ折ル「ナシ且冬葉ノ落ル「カアリマセン四ハ鼓「イブシ」ニハ是ニスキタルモノハ有マセン栢ノ「タム」ニアタリタル故ハ口バシガマガルト云位ノ「五ハ躍若木ニナッテ立枯ニナリタル時用木ニナッテ他ノ雜木ノ十倍ノ効アリ此良木ヲ人ニヨルト此栢ハ邪魔ニナルカラ伐ッテシマウ杯ト申モノモアリ升ガ此義ハ暫時御控ヲ願上升倍宅地周邊ノ「カキ」從來ハ杉木ヤ木サシヅシ槍葉有害無効ノカラタチ是レテノ雜木ハ善敵ニカリヨミノ手數ハ懸リ升カ其收穫ハナシ依テ桑茶ノ二木ニ限リマスカト存マスガ倚高位御發明ノ事柄御教導奉仰升
千葉縣上總國市原郡姉崎村平民
大日本農會通常會員
千葉縣房總會
市川宮次
敬白

大日本水産會報告第五十一號附錄（明治十九年六月廿八日刊行）

第一回水産品評會規則

東京京橋區木挽町貳丁目十四番地
大日本水産會事務所

記シ且ツ成ルヘク製造、需用、損益、改良、發明並ニ從來受賞ノ有無等ヲ詳記シテ添付スルヲ要ス
但出品八口頭ヲ以テ説明スルモ妨ケナシ
第九條　出品ハ品評委員之ヲ品評シ其優等ナルモノニハ本會々頭ヨリ褒賞ヲ附與スヘシ
第十條　出品ハ其精粗良否等ニ付特ニ評説アルモノニ限リ閉場後其評決書ヲ出品主ニ送附スルヿアルヘシ
第十一條　會場整頓出品陳列等ニ關スル一切ノ事務及ヒ費用ハ本會ニ於テ負擔スヘシ
但出品運送費ハ出品主ノ自辨タルヘシ
第十二條　出品ハ開場中賣買ヲ約定スルヿヲ得ルト雖モ閉場後ニアラサレハ場外ニ持出スヲ許サス
第十三條　出品ハ豫テ別段ノ報知アルニアラサレハ返付セサルヘシ
但賣殘品ハ閉場後競賣ニ付スヘシ
第十四條　賣却シタル出品ノ代金ハ爲換手數料郵便税等ヲ引去リ殘金ヲ返附スヘシ
第十五條　品評委員ハ本會ノ幹事及ヒ學藝委員若クハ其業ニ熟練ナルモノヲ本會々頭ヨリ指名シテ之ニ充ツ
第十六條　品評委員長ハ毎品其優劣表ヲ製シ褒賞ノ等位ヲ按シテ本會々頭ノ決行ヲ請フ可シ
第十七條　品評委員ハ自已ノ出品ヲ品評スルヿヲ得ス
第十八條　出品ハ本會ニ於テ成ルヘク丁寧ニ保護スト雖モ不慮ノ損害ハ其責ニ任セサルヘシ
第十九條　會場ハ公衆ノ入觀ヲ許ス其入場料ハ一人金貳錢トス
但本會々員ハ會員証ヲ携フル片ニ限リ其家族並ニ朋友三名以內ヲ誘引スルモ共ニ入場料ヲ要セス

鳩麥栽培調理實驗表

抑モ此鳩麥ハ和漢古農書ニ記セルカ如ク滋養効力至大ナル良品且數十年ノ久シキ古麵ト雖モ虫害或ハ風味失スルノ憂ナキ者ニシテ救荒豫備品中第一ニ位スルハ自然國益草ノ一稱ヲ附スヘキ良品ナリト雖モ内地諸彦未タ其利ヲ收メザル者多數ナルヲ小生夙ニ厭歎シ該種播種ノ事ニ熱心シ内國老農奈良專二翁ノ教授ヲ受ケ以テ該種久之地ニ尋種子ヲ遞送シ普ク播種ノ事ヲ誘導シ自ラ全國ニ救荒豫備ノ充滿セラレンヿヲ祈該品栽培調理實驗法ヲ畧記シテ以テ參考ニ供ス

一　播種ノ地　良否ヲ問ス上地ハ水陸田尤水田植付ハ早損ノ節ナリ下地ハ不毛廢棄ノ如ク從來草立陰濕ノ地下水芥溜ノ周邊私道路堤防河岸及付寄洲等ナリ　但庭前ノ植草鉢植等ナリ

二　播時期節　陰曆八十八夜前廿日后十日トス尤通常冬作大麥小麥取込ノ后夏作ナリトス地面壹尺以上ヲ離シ跡ニテ土ヲヤワラゲ鳩麥丸實壹貳粒退播植ス又一作ニハ畑地ニ大麥ノ如ク時附亢肥充分加ヘ生草ノ后鳩麥ノ丈ケ五六寸ニ至リシ頃前記ノ地ニ植附ベシ　但大麥ノ如ツテミミト時附ル作法尤好トス

三　肥料　上ナルハ「退リソサンセツカイ」干鰯人糞牛馬糞類トス下ナルハ芥土下水ノ泥土等ナリ　但肥料養ハ元糞ニ限ルナリ

四　收獲九月下旬ヨリ十月上旬ノ頃ニ至リ實ノ色黑キヲ度トシ地ヨリ貳尺程上ヨリ切斷シ莖二本位ニテ小束ニ縮リ實ノコボルヽ故靜ニ心ヲ用テ取扱フベシ其穗ヲ畑中ニ集メ二日限リ立置ベシ第三日目ハ早朝ヨリ丸木ニ打拂黑キ實ノ落ツルヲ度トシ白實ハ其儘莖ニ附ケ置ナリ落シタル實ハ上天氣二日間日光ニ干揚良實ノ堅マリタルヲ度トシ俵入畜藏スベシ　但上作ハ地壹反步ニ附八石以上ヲ得ルナリ

五　根ノ取入　先畑ノ作両側ニアル根附ノ莖ヲ左右ノ手ニテ引拔両手ニ一ト摑ニナルヲ度トシヒヤウシギノ如ク打ツナリ然ルトキハ土殘ラズ散乱ス夫レヲ貳尺程長サノ繩ニテ捕リ四斗樽ノ如キ桶ニ水ヲ入根ノ方ヲ水ニ入ザブミミト洗キ泥ヲ落シ根ヲ上ニ向ケテ日光ニ干揚其儘畜藏スベシ但此根ハ藥品ナリ肺病ニ大効アリ

六　莖ノ取入　第四ノ如白キ實ノ附タル儘四斗樽ニ水ヲ入ザブミミト洗揚ケ日光ニ干揚ケ押切ニテ一分位ニ切割シ熔鍋ニテ黑クナル程熔焦シ毎日通常ノ茶ノ如ク飲用スベシ痢病淋病等ニ大効アリ

七　鳩麥白　先實ヲ最初一分八厘一分五厘目ノ「ワルイ」ニテ實ノ大小ヲ分ケ其實ヲ通常ノ米搗臼ニテ搗揚ケ前記ノワルイニテ分ケ又搗臼ニテ四度ヲ搗唐箕ニテ吹分ケ全ク玄麥トナリタルモノ壹斗ヲ臼ニ入レ水貳合粉糠壹升ヲ加ヘ搗ナリ然ルトキハ通常ノ飯米三分一ノ手數ニテ上白トナルベシ　但其糠有効ナルモノニ付蓄藏スベシ

八　鳩麥ニテ飯類　赤飯牡丹餅ニハ通常ノ糯米半交ニシテ好シトス又通常ノ飯モ米半交ニシテ食ス甚タ美味ヲ含メリ

九　酒類　鳩麥酒濁酒清酒甘酒等ハ麥白ヲ糀トナシ通常ノ米ニテ釀造スルモ少シモ異ヿナシ

十　粉類　鳩麥三日間水ニ浸シ少シ干揚石臼ニ懸ケ粉トナシ其粉餅或ハ團子或ハ鳩麥切リ是ハ通常ノ蕎麥切ノ如シ又寒晒シ寒水ニ十日間晒シ則水挽ニナス澱粉ヲ取ルナリ是ハ通常ノ葛湯ノ如クナシテ飲用スレバ風邪熱ヲ消滅ス

十一　鳩麥珈琲　鳩麥丸實ノ儘能ク洗揚ケ日光ニ干黑クナル程熔焦シ石臼ニテ挽粉トナシテ通常珈琲ノ如クナシテ飲用セハ恰モ通常珈琲ノ如シ　但滋養ノ効アルモノナリ

十二　身躰中ノ拔根切粉　鳩麥玄實石臼ニ懸ケ粉トナシタルモノ「ツクイ」ニテヲリ拔ノ上ニ張ルトキハ五日間ニ治ス尤日ミミ三度ツヽ張替ベシ又一法ハ身躰中ニ自由ニ張能ハザル箇所ヘ出來タル者ハ鳩麥白一日ニ一合ツヽ食スベシ然ルトキハ身躰中ニ拔根切レナルベシ

十三　熔物　鳩麥玄實ヲ熔鍋ニテ好程ニ熔リ揚ケ砂糖ヲ加ヘ通常ノ茶菓子トナシテ甚タ美味ナリ滋養ニ効アルモノナリ

○水產品評會開設ノ趣旨

本年三月府下上野公園内に於て水產共進會ヲ開キ廣ク各地ノ水產製品ヲ蒐集シテ其精粗優劣ヲ鬪ハシ以テ當業者ノ耳目ヲ刺衝セリ然レ𪜈事業ノ一進一退ハ時ニ隨テ相同シカラス當業者ノ氣力如何ニヨリ未タ幾ナラスシテ優劣地ヲ替ユルモノ往々鮮ナシトセス是ヲ以テ他日再ヒ同一ノ共進會ヲ開設シテ前回ノ效果如何ヲ徵スルノ時アルヘシト雖𪜈其規摸計畫自カラ廣大ナルヲ以テ屢々之ヲ行フニ便ナラス依テ更ニ水產品評會ヲ創起シ每回必ラス品目ヲ限リテ其目的ヲ單一ニシ勉メテ其要領ヲ得ンヿヲ期ス即チ明年四月ヲ以テ第一回ノ品評會ヲ開キ清國貿易品五種及ヒ雜用製品四種ヲ以テ其主品トナシ共進會以後ノ景況ニ就テ其優劣ヲ對較セントス若シ會員諸君ノ贊成ヲ得ルヿ本年ノ共進會ト異ナルナクンハ幸甚

明治十九年六月五日

大日本水產會

第一回水產品評會規則

第一條　明治廿年四月一日ヨリ同七日迄日數七日間東京府下京橋區木挽町二丁目厚生館ニ於テ第一回水產品評會ヲ開設スヘシ

第二條　出品ヲ分テ左ノ二類トス

第一類　清國貿易品

鯣　海參　乾鮑　鱶鰭　乾蝦

第二類　水產雜用製品

介殼細工　鱗甲細工　魚骨細工　魚皮細工

但第二類ノ出品ニハ成ルヘク原料ヲ添付スヘシ

第三條　本會々員ハ前條ノ品目ニ從ヒ自家ノ製產物及ヒ之ニ連帶シタル物品ヲ出陳スルヿヲ得

第四條　會員外ト雖𪜈官廳等ノ製產物ハ其出陳ヲ請スヘシ

第五條　出品ハ明治十九年以後ノ製產ニ限ルモノトス

第六條　出品員數ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一　斤ヲ以テ稱スルモノハ壹斤ヨリ五斤迄

第二　升目ヲ以テ稱スルモノハ壹升ヨリ五升迄

第三　個ヲ以テ稱スルモノハ二個ヨリ十個迄

第四　把ヲ以テ稱スルモノハ壹把ヨリ五把迄

第五　枚及本ヲ以テ稱スルモノハ貳枚本ヨリ拾枚本迄

但第二類ノ出品ハ本文ノ員數ヨリ少ナキモ妨ケナシ

第七條　出品ハ明治廿年三月廿日迄ニ本會事務所ヘ遞送スヘシ

第八條　出品ハ必ス出品主ノ府縣國郡區町村氏名及ヒ物名員數賣價(非賣品ナラハ其旨ヲ記ス)ヲ記シ且ツ成ルヘク製造、需用、損益、改良、發明並ニ從來受賞ノ有無等ヲ詳記シ又物名ニハ傍訓及ヒ方言ヲ記入スルヲ要ス

但出品人口頭ヲ以テ說明スルモ妨ケナシ

第九條　出品ハ品評委員之ヲ品評シ其優等ナルモノニハ本會々頭ヨリ褒賞ヲ附與スヘシ

但官廳ノ出品ニハ褒賞ヲ附與セス

第十條　出品ハ其精粗良否等ニ付特ニ評說アルモノニ限リ閉塲後其評決書ヲ出品主ニ送附スルヿアルヘシ

第十一條　會塲整頓出品陳列等ニ關スル一切ノ事務及ヒ費用ハ本會ニ於テ負擔スヘシ

但出品運送費ハ出品主ノ自辨タルヘシ

第十二條　出品ハ開塲中賣買ヲ約定スルヿヲ得ルト雖𪜈閉塲後ニアラサレハ塲外ニ持出スヲ許サス

第十三條　出品ハ豫テ別段ノ報知アルニアラサレハ返付セサルヘシ

但賣殘品ハ閉塲後競賣ニ付スヘシ

第十四條　賣却シタル出品ノ代金ハ爲換手數料郵便稅等ヲ引去リ殘金ヲ返附スヘシ

第十五條　品評委員ハ本會ノ幹事及ヒ學藝委員若クハ其業ニ熟練ナルモノヲ本會々頭ヨリ指名シテ之ニ充ツ

第十六條　品評委員長ハ每品其優劣表ヲ製シ褒賞ノ等位ヲ按シテ本會々頭ノ決行ヲ請フ可シ

第十七條　品評委員ハ自已ノ出品ヲ品評スルヿヲ得ス

第十八條　出品ハ本會ニ於テ成ルヘク丁寧ニ保護スト雖𪜈不慮ノ損害ハ其責ニ任セサルヘシ

第十九條　會塲ハ公衆ノ入觀ヲ許ス其入塲料ハ一人金貳錢トス

但本會々員ハ會員証ヲ携フル𪜈ニ限リ其家族並ニ朋友三名以內ヲ誘引スルモ共ニ入塲料ヲ要セス

大日本水產會報告第六十五號附錄(明治二十年八月十日刊行)

第二回水產品評會規則

東京京橋區木挽町貳丁目十四番地
大日本水產會事務所

鳩麥製落雁

薏苡は近來の新作物にして

世に告け益その用途を擴む

需用を全都に及ほさんとを

應するの準備頃日やうやく

大集會に當り本會の高囑に

記して農家に向ひては益その

んとす蓋農作物を撰ふには

るものあり或ハ收穫の多き

の又は品質の良きを貴ふもの

望むは困難なるを言を竢た

のを撰ふを以て先つ農作物

に適合する作物の種類に注

れを薏苡となす薏苡は俗に

訛し之ヨ字を塡せしものに

麥、八石麥、四石麥、八斗麥、クス

麥、八斗麥等は共に收穫の豐

ス、ラクリマ(Coix lacryma, L.)と

○水產品評會

本年三月府下上野公園内に於ハシ以テ當業者ノ耳目ヲ刺衝何ニヨリ未タ幾ナラスシテ億ヲ開設シテ前回ノ効果如何ヲ行フニ便ナラス依テ更ニ求其要領ヲ得ンヿヲ期ス即チ問種ヲ以テ其主品トナシ共進會ヿ本年ノ共進會ト異ナルナク

明治十九年六月五日

第一回水產品

第一條　明治廿年四月一日ヨ
一回水產品評會ヲ開設ス
第二條　出品ヲ分テ左ノ二類
第一類　清國貿易品
鯣　海參　乾鮑　鱶
第二類　水產雜用製品
介殼細工　鱗甲細工
但第二類ノ出品ニハ成
第三條　本會々員ハ前條ノ品
第四條　會員外ト雖モ官廳
第五條　出品ハ明治十九年
第六條　出品員數ハ左ノ制
第一　斤ヲ以テ稱スルモ
第二　升目ヲ以テ稱スル
第三　個ヲ以テ稱スルモ
第四　把ヲ以テ稱スルモ
第五　枚及本ヲ以テ稱ス
但第二類ノ出品ハ本文
第七條　出品ハ明治廿年三
第八條　出品ハ必ス出品主

○第二回水產品評會開設ノ趣旨

客歲本會ニ於テ水產共進會ヲ開キ當業者ノ耳目ヲ啓發センヿヲ務メタリ爾後同一ノ共進會ヲ開キ前回ノ効果如何ヲ徵セント欲スト雖モ其規模自ラ廣大ナルヲ以テ屢々之ヲ行フニ便ナラス依テ更ニ品評會ヲ創起シ每回必ラス品目ヲ限リテ其目的ヲ單ニシ勉メテ其要領ヲ得ンヿヲ期シ本年四月ヲ以テ第一回品評會ヲ開設セシニ會員諸君ノ賛成ヲ得テ其出品頗フル多ク其成績大ニ觀ルヘキモノアリ今前例ニ因リ明年六月ヲ以テ第二回品評會ヲ開キ內國需用品二種清國貿易品四種及ヒ雜用製品三種ヲ以テ主品トシ其優劣精粗ヲ對較セントス若シ會員諸君ノ賛成ヲ得ルヿ本年ニ倍加スルヿヲ得ハ幸甚

明治二十年八月六日

大日本水產會

第二回水產品評會規則

第一條　明治廿一年六月一日ヨリ同七日迄日數七日間東京府下京橋區木挽町二丁目厚生館ニ於テ第二回水產品評會ヲ開設スヘシ
第二條　出品ヲ分テ左ノ三類トス
第一類　內國需用品
鰹節　鮪節
第二類　清國貿易品
鯣　海參　田作　淡菜　乾蛤　貝柱
第三類　水產雜用製品
介殼　鱗甲　骨齒細工
但第三類ノ出品ニハ成ルヘク原料ヲ添付スヘシ
第三條　本會々員ハ前條ノ品目ニ從ヒ自家ノ製品、商品及ヒ之ニ連帶シタル物品ヲ出陳スルヿヲ得
第四條　會員外ト雖モ官廳並ニ組合等ノ出品ハ其陳列ヲ諾スヘシ
第五條　出品ハ明治二十年以後ノ製產ニ限ルモノトス
第六條　出品員數ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス
第一　斤ヲ以テ稱スルモノハ壹斤ヨリ五斤迄
第二　升目ヲ以テ稱スルモノハ壹升ヨリ五升迄
第三　個ヲ以テ稱スルモノハ二個ヨリ十個迄
第四　把ヲ以テ稱スルモノハ壹把ヨリ五把迄
第五　枚及本ヲ以テ稱スルモノハ貳枚本ヨリ拾枚本迄
但第三類ノ出品ハ本文ノ員數ヨリ少ナキモ妨ケナシ
第七條　出品ハ明治廿一年五月十日迄ニ本會事務所ヘ遞送スヘシ
第八條　出品ハ必ス出品主ノ府縣國郡區町村氏名及ヒ物名員數賣價（非賣品ナラハ其旨ヲ記ス）ヲ

鳩麥製落雁發賣報單

薏苡は近來の新作物にして目下新需用を世に告け益、その用途を擴むるを急なりと需用を全都に及ほさんとを圖り粗實、精實應するの準備頃日やうやく整頓す即この大集會に當り本會の高囑によりて製した記して農家に向ひては益、その栽培を勸めんとす蓋農作物を撰ふには其目的種々あるものあり或ハ收穫の多きを目的とするの又は品質の良きを貴ふもの等あるへく望むは困難なると言を竢たす然れとも成るのを撰ふを以て先つ農作物と撰ふの手段に適合する作物の種類に注意すると久しれを薏苡となす薏苡は俗に鳩麥（はとむぎ）と記せ誂し之ま字を塡せしものにして素より鳩麥、八石麥、四石麥、八斗麥、クスダマ（美作の方言）は麥、八斗麥等は共に收穫の豐なるを表するス、ラクリマ（Coix lacryma, L.）といひ英語にて

鳩麥の圖　世人或ハ薏苡を以て川穀（じゆこく）と混するものあれとも薏苡は殼薄くして仁多く、川穀は殼厚くして仁少なし辨せさるへからす

何ニヨリ來タ幾ナラスシテ
ヲ開設シテ前回ノ効果如何
ヲ行フニ便ナラス依テ更ニ
其要領ヲ得ンヿヲ期ス即チ
種ヲ以テ其主品トナシ共進
ヿ本年ノ共進會ト異ナルナ

明治十九年六月五日

第一回水産品

第一條　明治廿年四月一日
一回水産品評會ヲ開設ス
第二條　出品ヲ分テ左ノ二
第一類　淸國貿易品
鯣　海參　乾鮑　鱶
第二類　水産雜用製品
介殼細工　鱗甲細工
但第二類ノ出品ニハ成
第三條　本會々員ハ前條ノ
第四條　會員外ト雖モ官廳
第五條　出品ハ明治十九年
第六條　出品員數ハ左ノ制
第一　斤ヲ以テ稱スルモ
第二　升目ヲ以テ稱スル
第三　個ヲ以テ稱スルモ
第四　把ヲ以テ稱スルモ
第五　枚及本ヲ以テ稱ス
但第二類ノ出品ハ本文
第七條　出品ハ明治廿年三

鳩麥即ち薏苡製の落雁

此落雁ハ千葉縣下總國印旛郡先崎村の通常會員和田啓藏氏に囑し氏の府下の販賣店に於て製造せしめたるものなり但薏苡の性効に就きては氏か廣告に概記せる所あるにより茲に又故らに擧くるを必用とせされは唯その畧圖を掲けて參照とす（裏面參看）

大日本農會

鳩麥製落鴈發賣報單

薏苡は近來の新作物にして目下新需用を要めつゝあるものなれは廣く之を世に告け益〻その用途を擴むるを急なりとす生今回府下に販賣者を置き漸次需用を全都に及ほさんとを圖り粗實、精實より精粉、菓子等に至るまて高顧に應するの準備頃日やうやく整頓す即この落鴈は其品の一にして本日第七回大集會に當り本會の高囑によりて製したるものなり尙因に薏苡の性効を概記して農家に向ひては益〻その栽培を勸め一般に向ひては愈〻その需用を擴めんとす蓋農作物を撰ふには其目的種々ありて或は勞費の少なきを目的とするものあり或ハ收穫の多きを目的とするものあり其他形觀の美を求むるもの又は品質の良きを貴ふもの等あるへしといへとも悉これを一物に就きて望むは困難なると言を竢たす然れとも成るへく一物にして只その多からんものを撰ふを以て先つ農作物と撰ふの手段となさゝるへからす予輩この目的に適合する作物の種類に注意するを久し而して近ころ幸に一を得たり即これを薏苡となす薏苡は俗に鳩麥と記せとも是ハ八斗麥（常陸の方言）の音讀より轉訛し之ニ字を塡せしものにして素より鳩の字に所以あるに非す但唐麥、朝鮮麥、八石麥、四石麥、八斗麥、クスダマ（美作の方言）は皆薏苡の一名にして其八石麥、四石麥、八斗麥等は共に收穫の豐なるを表するものなるへし即學語にてはコイッキス、ラクリマ（Coix lacryma, L.）といひ英語にてはジョップス、チィヤス（Job's Tears.）といり

……日）は豫て報告第七拾八號及ひ第八拾號
候通り本會々堂厚生館に於て第七回大集
に集りて相互に農事上の經驗知識を交換
して有益の演說を催し參考上に適切なる
るゆえ彼我に益する所必す少なからさる
晨間を以て一堂の談話に充られ當日午前
度最希望の至ニ有之候

第七回大集會順序

三日曜日）本會々堂厚生館ニ於て開會
……
前年中執行の要件を報道す
談話

通常會員	加藤懋君
特別會員	練木喜三君
同	村上要信君
通常會員	小澤善平君
特別會員	澤田駒次郎君
[illegible]	[illegible]

第五條　出品ハ明治十九年
第六條　出品員數ハ左ノ制
第一　斤ヲ以テ稱スルモ
第二　升目ヲ以テ稱スル
第三　個ヲ以テ稱スルモ
第四　把ヲ以テ稱スルモ
第五　枚及本ヲ以テ稱ス
但第二類ノ出品ハ本文
第七條　出品ハ明治廿年三

其總量およそ八石弱にして四斗入拾八俵あり其殼を去りて仁を量るときハ貳石五斗弱を得へし老農の經驗に據るに壹段歩の栽培費およそ金拾貳圓を引き去るも尚貳拾五圓の餘益ありといへり

（第四）薏苡は養質の多分なるものなり　駒場農學校の試驗に據れは薏苡は他の禾本類（薏苡は勿論米、麥、黍、䅥等みな此科ょ属も）と其成分の大に異なるものにして養分の多く消化の速なるとは他の穀物中一も之に及ふ者なく且その膠質の多きは小麥に等しく脂油に富めると亦他に比なし即その成分は左表の如くなりといへり

薏苡成分表

成分		新鮮物百分中（但外皮を除く）	乾燥物百分中
水		一二、〇九	……
蛋白質		一七、五七	一九、九八
脂油		五、八〇	六、六〇
可溶水酸化炭素		六二、三八	七〇、九六
内	澱粉	五四、五四	六二、〇五
	デキストリン	一、七三	一、九六
	糖質グリウコヲス等	三、九八	四、五二
	未詳物	二、一三	二、四二
纖維		〇、八六	〇、九八
灰		一、三〇	一、四八
合計		一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
窒素全量		二、八二	三、一九七
阿密土状にて存する物		〇、〇四九	〇、〇五七

薏苡外六種成分比較表

種別	窒素複體	脂油	可溶水酸化炭素
薏苡仁	一九、九八	六、六〇	七〇、九六
小麥	一四、三七	一、九六	七八、五六
大麥	一三、四八	二、四五	七六、〇〇
燕麥	一三、四七	六、九三	六三、六五
ライムギ	一三、四八	二、〇二	八〇、〇五
玉蜀黍	一一、六七	五、五二	七七、五六
米（玄米）	九、八四	二、六六	八八、〇三

此他諸種の藥効を奏し殊に疣贅（いぼ）を脫落するか如きは近頃その記載に乏しからされは今また一々列擧せす

（第五）薏苡は用途の夥多なるものなり　薏苡は用途の夥多なるものにして今悉く枚擧するに遑あらすといへとも先その二三の重なるものを記載すれは粒の最精製したる品は毫も眞珠麥（パアル、バアレイ）に異ならすして淸人は之を苡仁米と稱し盛饌に供する上等品の一となす或は米に和して飯または粥となすへし、糯米を和し或は和せす蒸し舂きて餅と爲すへし、粉と爲しては糕（だんご）を製し、麵包（パン）に烙（や）き、麵類に製し、菓子に造るへし、或は蒸して糒（ほしひ）に製し、釀して酒に造り、又は麥芽と共に飴に製すへく殊に其澱粉の如きは迥に黍の寒晒粉に優るといふ近頃はよく粒を炒りて咖啡（カッフヒイ）の用に代ふるものあり、又莖葉を剉みて炒り番茶の用に供するものあり共に一種の香氣あり亦以て常用に可なり

（第六）薏苡は備荒の要品たるものなり　薏苡は殼やゝ堅く且厚しされは殼付のまゝ俵に入れ之を備荒貯蓄の料となすときは籾を貯藏するよりも尚よく久存に耐えて蟲蝕（むしくひ）を被ふらさるのみならす久しく發芽力を保つか故に種子の料となすにも亦はなはた宜しといふ況や夏月雨多くして他物の違作なる年にても薏苡はよく繁茂して豐登するの特益あるおや

千葉縣下總國印旛郡先崎村
大日本農會通常會員
薏苡栽培發賣人　和田啓藏

東京府神田區龍閑町拾五番地
同
同　製造販賣人　青木清次郎

大日本農會

…日）は豫て報告第七拾八號及ひ第八拾號
…候通り本會々堂厚生館に於て第七回大集
…に集りて相互に農事上の經驗知識を交換
…して有益の演說を催し參考上に適切なる
…るゆえ彼我に益する所必ず少なからさる
…農間を以て一堂の談話に充られ當日午前
…度最希望の至ょ有之候

第七回大集會順序

…三日曜日）本會々堂厚生館ょ於て開會
…旨
…前年中執行の要件を報道す
…談話
通常會員　加藤懋君
特別會員　練木喜三君
同　村上要信君
…り
通常會員　小澤善平君
特別會員　澤田駒次郎君

鳩麥製落鴈發賣報單

薏苡は近來の新作物にして目下新需用を要めつゝあるものなれは廣く之を世に告け益〻その用途を擴むるを急なりとす生今回府下に販賣者を置き漸次需用を全都に及ほさんことを圖り粗實、精實より精粉、菓子等に至るまて高顧に應するの準備頃日やうやく整頓す即この落鴈は其品の一にして本日第七回大集會に當り本會の高囑によりて製したるものなり尙因に薏苡の性効を概記して農家に向ひては益〻その栽培を勸め一般に向ひては愈〻その需用を擴めんとす蓋農作物を撰ふには其目的種々ありて或は勞費の少なきを目的とするものあり或ハ收穫の多きを目的とするものあり其他形觀の美を求むるもの又は品質の良きを貴ふもの等あるへしといへとも悉これを一物に就きて望むは困難なるを言を竢たす然れとも成るへく一物にして只その多からんものを撰ふを以て先つ農作物を撰ふの手段となさゝるへからす予輩この目的に適合する作物の種類に注意するを久し而して近ころ幸に一を得たり即これを薏苡となす薏苡は俗に鳩麥と記せとも是ハ八斗麥(常陸方言)の音讀より轉訛し之ゑ字を塡せしものにして素より鳩の字に所以あるに非す但唐麥朝鮮麥、八石麥、四石麥、八斗麥、クスダマ(美作方言)は皆薏苡の一名にして共八石麥、四石麥、八斗麥等は共に收穫の豐なるを表するものなるへし即學語にてはコイッキス、ラクリマ(Coix lacryma, L.)といひ英語にてはジョップス、チィヤス(Job's Tears.)といふものなり此者もとは淸國南方の產にして享保年間我國に傳へたりといふ方今栽培する所その種類二樣あり其粒稍狹長、皮色淺褐にして至りて破り易きものを漢種となし又粒狀豐圓、皮色濃褐帶黒にして擊たされは破り難きものを通常種(所謂鳩麥)となす蓋薏苡の栽培は從前なほ甚開けす隨ひて其用また世人の未知らさりし所にして唯明治の初年に方り之か栽培を試驗せし者ありしも未時機の到らさりし爲か甚蕃殖するに至らさりしか去十七年の頃に至り偶然府下の新聞紙に薏苡根の肺病に特効あることを記載したるより遠近たちまち此說を流傳し世徧く薏苡を知るに至り爾後栽培者の經驗說出て、學理家の試驗表出てゝ倍〻其有益なるを證言し漸く世の注意を惹起したり今その有益なる點を約するときは左の六項と爲すへし云く土地の肥瘠乾濕を撰はす到處に繁茂豐登する一なり、栽培容易にして勞費の甚少なき二なり、收穫の多量なる三なり、滋養質多分にして人體を補益し消化速にして健胃に宜しく且諸種の病患に特効の顯著なる四なり、用途の夥多なる五なり、久貯に耐えて蟲害を受けす故に備荒の食料となすには無比の要品なる六なり即

(第一)薏苡は到處に適應するものなり　薏苡は土地の肥瘠と乾濕とを撰はす到處によく繁茂豐登するものなり就中新開の園地等なれは故らに肥料を施さゝるも多量の收穫あると他穀の比類にあらす

(第二)薏苡は栽培の容易なるものなり　薏苡ハ八十八夜の頃ゐ種子を凡壹尺間に播き其際人糞、堆肥等を施し爾後は麥作同樣に扱ひ除草にさへ注意すれは別段の勞費なく十月頃に至りて十分に熟するものなり

(第三)薏苡は收益の多額なるものなり　薏苡は培養懇到にして登實十分なるときは壹株の收穫およそ壹合餘あるものなり今壹段歩の株數を七千貳百(毎株)[illegible]し毎株平均壹合餘を收穫するものとするときは

薏苡製の落雁

總國印播郡先崎村の通[illegible]に囑し氏の府下の販賣[illegible]めたるものなり但薏苡[illegible]氏か廣告に概記せる所[illegible]故らに擧くるを必用と[illegible]圖を揭けて參照とす(裏

大日本農會

拜啓陳者來十五日(第三日曜日)は豫て報告第七拾八號及ひ第八拾號附錄を以て御報道およひ置候通り本會々堂厚生館に於て第七回大集會相開き各地方の會友一堂に集りて相互に農事上の經驗知識を交換じ午後よりは諸名士を招請して有益の演說を催し參考上に適切なる圖表を陳列して觀覽に供ふるゆえ彼我に益する所必す少なからさる義と存し候へは幸に一日の農間を以て一堂の談話に[illegible]

煎豆

ふものなり此者もとは清國南方の産にして享保年間我國に傳へたりといふ方今栽培する所その種類二樣あり其粒稍狹長、皮色淺褐にして至りて破り易きものを漢種となし又粒狀豐圓、皮色濃褐帶黑にして撃たされは破り難きものを通常種（所謂鳩麥）となす蓋薏苡の栽培は從前なほ甚開けす隨ひて其用また世人の未知らさりし所にして唯明治の初年に方り之か栽培を試驗せし者ありしも未時機の到らさりし爲か甚蕃殖するに至らさりしか去十七年の頃に至り偶然府下の新聞紙に薏苡根の肺病に特効あることを記載したるより遠近たちまち此說を流傳し世偏く薏苡を知るに至り爾後栽培者の經驗說出て、學理家の試驗表出てゝ倍、其有益なるを證言し漸く世の注意を惹起したり今その有益なる點を約するときは左の六項と爲すへし云く土地の肥瘠乾濕を撰はす到處に繁茂豐登する一なり、栽培容易にして勞費の甚少なき二なり、收穫の多量なる三なり、滋養質多分にして人體を補益し消化速にして健胃に宜しく且諸種の病患に特効の顯著なる四なり、用途の夥多なる五なり、久貯に耐えて蟲害を受けす故に備荒の食料となすには無比の要品なる六なり即

（第一）薏苡は到處に適應するものなり　薏苡は土地の肥瘠と乾濕とを撰はす到處によく繁茂豐登するものなり就中新開の圃地等なれは故らに肥料を施さゝるも多量の收穫あると他穀の比類にあらす

（第二）薏苡は栽培の容易なるものなり　薏苡ハ八十八夜の頃ふ種子を凡壹尺間に播き其際人糞、堆肥等を施し爾後は麥作同樣に扱ひ除草にさへ注意すれは別段の勞費なく十月頃に至りて十分に熟するものなり

（第三）薏苡は收益の多額なるものなり　薏苡は培養懇到にして登實十分なるときは壹株の收穫およそ壹合餘あるものなり今壹段歩の株數を七千貳百（毎株）の[illegible]每株平均壹合餘を收穫するものとするときは壹[illegible]

[illegible]薏苡製の落雁

[illegible]總國印播郡先崎村の通[illegible]に囑し氏の府下の販賣[illegible]めたるものなり但薏苡氏か廣告に概記せる所故らに擧くるを必用と圖を掲けて參照とす（裏

大日本農會

煎豆問屋

中村定七

芝區新櫻田町壹番地角

ため一の程奉希上候

拜啓陳者來十五日（第三日曜日）は豫て報告第七拾八號及ひ第八拾號附錄を以て御報道およひ置候通り本會々堂厚生館に於て第七回大集會相開き各地方の會友一堂に集りて相互に農事上の經驗知識を交換し午後よりは諸名士を招請して有益の演說を催し參考上に適切なる圖表を陳列して觀覽に供ふるゆえ彼我に益する所必す少なからさる義と存し候へは幸に一日の農閒を以て一堂の談話に充られ當日午前より御來會被下候樣いたし度最希望の至ニ有之候

〇大日本農會第七回大集會順序

明治二十一年四月十五日（第三日曜日）本會々堂厚生館ニ於て開會

一　當日午前第九時會員參着

二　次て幹事より開會及ひ前年中執行の要件を報道す

三　次て會員諸氏演述並ニ談話

演題

牧畜の話續	通常會員	加藤懋君
養蠶家諸君に告く	特別會員	練木喜三君
農業の經濟續	同	村上要信君
洋種葡萄の栽培漸く本邦に開けたり	通常會員	小澤善平君
藥草の話	特別會員	澤田駒次郎君
[illegible]	[illegible]	[illegible]君

しも未時機の到らさりし爲か甚蕃殖するに至らさりしか去十七年の頃に至り偶然府下の新聞紙に薏苡根の肺病に特効あるとを記載したるより遠近たちまち此說を流傳し世偏く薏苡を知るに至り爾後栽培者の經驗說出て、學理家の試驗表出て、倍〻其有益なるを證言し漸く世の注意を惹起したり今その有益なる點を約するときは左の六項と爲すへし云く土地の肥瘠乾濕を撰はす到處に繁茂豐登する一なり、栽培容易にして勞費の甚少なき二なり、收穫の多量なる三なり、滋養質多分にして人體を補益し消化速にして健胃に宜しく且諸種の病患に特効の顯著なる四なり、用途の夥多なる五なり、久貯に耐えて蟲害を受けす故に備荒の食料となすには無比の要品なる六なり即

(第一)薏苡は到處に適應するものなり　薏苡は土地の肥瘠と乾濕とを撰はす到處によく繁茂豐登するものなり就中新開の圃地等なれは故らに肥料を施さゝるも多量の收穫あるを他穀の比類にあらす

(第二)薏苡は栽培の容易なるものなり　薏苡ハ八十八夜の頃ニ種子を凡壹尺間に播き其際人糞、堆肥等を施し爾後は麥作同樣に扱ひ除草にさへ注意すれは別段の勞費なく十月頃に至りて十分に熟するものなり

(第三)薏苡は收益の多額なるものなり　薏苡は培養懇到にして登實十分なるときは壹株の收穫およそ壹合餘あるものなり今壹段歩の株數を七千貳百(毎株)の[illegible]每株平均壹合餘を收穫するものとするときは

に囑し氏の府下の販賣
めたるものなり但薏苡
氏か廣告に概記せる所
故らに擧くるを必用と
圖を揭けて參照とす（裏

大日本農會

煎豆問屋
芝區新櫻田町壹番地角
中村定七
加へ風味ハ勿論衛養生專一に廉價を以て調製仕候間多少に不拘御購求御
ため一の程奉希上候

拜啓陳者來十五日(第三日曜日)は豫て報告第七拾八號及ひ第八拾號附錄を以て御報道および置候通り本會々堂厚生館に於て第七回大集會相開き各地方の會友一堂に集りて相互に農事上の經驗知識を交換し午後よりは諸名士を招請して有益の演說を催し參考上に適切なる圖表を陳列して觀覽に供ふるゆえ彼我に益する所必す少なからさる義と存し候へは幸に一日の農閒を以て一堂の談話に充られ當日午前より御來會被下候樣いたし度最希望の至ョ有之候

但御來會の節は必す會員證御携帶相成度候

明治二十一年四月九日

東京京橋區木挽町貳丁目拾四番地

大日本農會

追て當日は會堂の壁面に農事關係の圖表類を陳列して參考に供し候筈に付會員諸君中右等御所藏の向は成るへく御出品の程希望いたし候

又會堂の一部に設置いたし候本會農產陳列場の義も陳列漸次整頓の運に至り候に付御休憩の間等には御一覽くたされ度且これまた標本圖書等成るへく御出品の程希望いたし候

又報告第八拾號を以て御報道および置候通り來五月三日(第一木曜日)より七日(第一月曜日)まて五日間前同所ョ於て第二十回農產品評會開設主として穀菽、蔬菜、農產製造食品、食用家禽を品評し旁他諸種の農產をも彙評いたし候筈ョつき會員諸君は成るへく御出品且繰合御參觀の上他人へも務めて來觀を御奬誘の程希望いたし候

ふものなり此者もとは清國南方の產に
方今栽培する所その種類二樣あり其粒
きものを漢種となし又粒狀豐圓皮色濃
のを通常種所謂鳩麥となす蓋薏苡の栽培は
人の未知らさりし所にして唯明治の初
しも未時機の到らさりし爲か甚蕃殖す
り偶然府下の新聞紙に薏苡根の肺病に
ちまち此說を流傳し世偏く薏苡を知る
家の試驗表出てゝ倍〻其有益なるを證言
有益なる點を約するときは左の六項と
す到處に繁茂豐登する一なり栽培容易
多量なる三なり滋養質多分にして人體
且諸種の病患に特効の顯著なる四なり
蟲害を受けす故に備荒の食料となすに
(第一)薏苡は到處に適應するものなり
到處によく繁茂豐登するものなり就中
さゝるも多量の收穫あると他穀の比類
(第二)薏苡は栽培の容易なるものなり
間に播き其際人糞堆肥等を施し爾後は
は別段の勞費なく十月頃に至りて十分
(第三)薏苡は收益の多額なるものなり
ときは壹株の收穫およそ壹合餘あるもの
の距離…し每株平均壹
壹歩…

○大日本農會第七回大集會順序

明治二十一年四月十五日(第三日曜日)本會々堂厚生館に於て開會

一 當日午前第九時會員參着

二 次て幹事より開會及ひ前年中執行の要件を報道す

三 次て會員諸氏演述並に談話

演題

牧畜の話 續　通常會員　加藤懋君

養蠶家諸君に告く　特別會員　綠木喜三君

農業の經濟 續　同　村上要信君

洋種葡萄の栽培漸く本邦に開けたり　通常會員　小澤善平君

藥草の話　特別會員　澤田駒次郎君

盆栽の話 附一歲梅　通常會員　佐藤祐三君

蠶業の未來を卜し併せて之か振興策に及ふ　同　群馬縣　久野久君

地方養蠶家の注意　同　同　小暮貞啓君

四 午第十二時休憩

五 午後第一時招待の諸員參着

六 次て會頭殿下御告辭

七 次て諸氏演述

演題

家畜を日本に增殖すへき有効の方法如何
名譽會員東京農林學校敎師獨國プロフエッソル、ドクトル、マキス、フエスカ君演述
通常會員同　助敎　岡田眞一郎君口譯

米作肥料試驗の成蹟
名譽會員東京農林學校敎師米國　シイ、シイ、ジョージソン君演述
同　助敎　森要太郎君口譯

飢饉の豫備
東京學士會院會員　杉亨二君

農業に及ほす所の石灰の効害
通常會員東京農林學校敎授農學士農藝化學士　酒匂常明君

八 次て來會員に紀念品として本會發行の圖書數種を抽籤にて進呈す

九 次て來會員に茶菓等を進呈す

十 右畢て散會

當日時刻を見計ひ特別會員池田謙藏君試製爪哇薯澱粉の煎餅、同稻波惇太郎君試製の「陸すゝ」を來會員に進呈す但出品者口頭にて

鈴木萬次郎先生賛言
衞生滋養 菓子 母兒の友 豆羊羹

發賣廣告
衞生滋養 菓子 母兒の友 豆よりかん

煎豆問屋 中村定七
芝區新櫻田町壹番地角

ふものなり此者もとは清國南方の産に
方今栽培する所その種類二樣あり其粒
きものを漢種となし又粒狀豐圓、皮色濃
のを通常種(所謂鳩麥)となす蓋薏苡の栽培は從
人の未知らさりし所にして唯明治の初
しも未時機の到らさりし爲か甚蕃殖す
り偶然府下の新聞紙に薏苡根の肺病に
ちまち此說を流傳し世偏く薏苡を知る
家の試驗表出て、倍〻其有益なるを證言
有益なる點を約するときは左の六項と
す到處に繁茂豐登する一なり、栽培容易
多量なる三なり、滋養質多分にして人體
且諸種の病患に特効の顯著なる四なり、
蟲害を受けす故に備荒の食料となすに

(第一)薏苡は到處に適應するものなり

到處によく繁茂豐登するものなり就中
さゝるも多量の收穫あると他穀の比類

(第二)薏苡は栽培の容易なるものなり

間に播き其際人糞、堆肥等を施し爾後は
は別段の勞費なく十月頃に至りて十分

(第三)薏苡は收益の多額なるものなり

ときは壹株の收穫およそ壹合餘あるもの
し每株平均

通常會員　佐藤□三君

蠶業の未來を卜し併せて之か振興策に及ふ　同　群馬縣　久野久君

地方養蠶家の注意　同　同　小暮貞啓君

四　午第十二時休憩

五　午後第一時招待の諸員參着

六　次て會頭殿下御告辭

七　次て諸氏演述

演題

家畜を日本に增殖すへき有効の方法如何
名譽會員東京農林學校敎師獨國プロフエッソル、ドクトル、マキス、フエスカ君演述
通常會員同　助敎　岡田眞一郎君口譯

米作肥料試驗の成蹟
名譽會員東京農林學校敎師米國　シイ、シイ、ジヨージソン君演述
同　助敎　森要太郎君口譯

饑饉の豫備
東京學士會院會員　杉亨二君

農業に及ほす所の石灰の効害
通常會員東京農林學校敎授農學士農藝化學士　酒匂常明君

八　次て來會員に紀念品として本會發行の圖書數種を抽籤にて進呈す

九　次て來會員に茶菓等を進呈す

十　右畢て散會

當日時刻を見計ひ特別會員池田謙藏君試製爪哇薯澱粉の煎餅、同
□皮亭太郎君試製の「陸す」一を來會員に進呈す但出品者口頭にて

鈴木萬次郎先生賛言

衞生滋養　菓子　母兒の友　豆羊羹

口よ苦くして疾病に利あるものハ良藥なり口に甘くして健康に不利なるものハ本邦にて從來慣用する所の菓子類なり故に近時洋製に摸擬するカステラビスケツト等の日を追て需用者多きハ理なり
菓子舖中村定七子深くこれを憂ひ多年其製法に苦心して彼の滋養多き豌豆說豆より葛粉二種の珍菓を製出せり此菓子や老母よ兒童と共に食して害なきハ勿論口よ甘くして却て健康に利あるハ彼の良藥の口に苦きよりも優れる事遠し因て余ハ此菓子を賛して母子の友と稱せり主人以テ如何となす

●衞生滋養　菓子　母兒の友　豆ようかん　發賣廣告

私し店之義ハ天保年度以來煎豆渡世仕來候處折柄健康に利ある處のうら豆ゑんどう豆の二種を以て落雁並にねりようかんの二色を製し皆々樣の滋養に供さんことを日夜苦心漸々製出發賣仕候處前顯の如く鈴木萬次郎先生始め名譽の賞賛を蒙り候段私の幸福之れに不過候因て尙此製法に精々注意を加へ風味ハ勿論御養生專一に廉價を以て調製可仕候間多少に不拘御購求御ためし奉希上候

芝區新櫻田町壹番地角
煎豆問屋　中村定七

左に記載するは明治貳十年四月十六日農
會の節下し賜たる賛言の寫

蠶豆豌豆製の落雁

蠶豆豌豆ともに養分多き食料なれとも唯その用方の宜しからさるによりて或は消化を鈍くすることあり世に所謂煎豆の如きは消化殊にあしきものとす然るに頃日我會員中村定七氏の新に按出して發賣せる貳種の落雁は專ら煎豆の粉末を以て製し其消化大に宜しきのみならす甘香口に適ひて甚茶媒の料に佳なるを覺ゆ蓋また我農産に一の新利用をなしたるものなり

大日本農會